

第3次府中市生涯学習推進計画 (案)

平成30年8月

はじめに（市長あいさつ）

目 次

はじめに

第 1 章 計画の策定にあたって	1
1 . 計画策定の背景と目的	1
(1) 生涯学習をめぐる国と都の動向	1
(2) 府中市の生涯学習	3
(3) 本計画の目的	6
2 . 計画の位置づけ	8
3 . 計画の期間	8
4 . 計画策定の体制	9
第 2 章 府中市の生涯学習を取り巻く現状と課題	11
1 . 府中市の現状	11
(1) 生涯学習系施設の設置状況	11
(2) 生涯学習施設の利用状況	12
2 . 府中市の生涯学習の実態と課題（市民アンケート調査、ヒアリング調査より）	14
(1) 市民の生涯学習の現状	14
(2) 「学び返し」について	15
(3) 生涯学習実施上の課題	17
第 3 章 計画の方向性	18
1 . 基本理念・基本目標	18
(1) 基本理念	18
(2) 基本目標	19
2 . 施策体系	20
第 4 章 具体的な施策の展開	21
基本施策 1 誰もが学べる環境づくり	21
(1) 現状と課題	21
(2) めざす姿	23
(3) 施策目標	23
(4) 施策の方向性	24
重点施策 新たな参加者を取り込む事業の実施	24
施策 1 対象者の特性に合わせた学習環境づくり	25
施策 2 気軽に参加できる学習環境づくり	27
基本施策 2 誰もが活躍できる環境づくり	28
(1) 現状と課題	28
(2) めざす姿	29
(3) 施策目標	29

（４）施策の方向性	31
重点施策 生涯学習と地域還元をつなげる事業の実施	31
施策１ 生涯学習を地域づくりにつなげる人材の育成や登用	32
施策２ 市民が活躍する場の拡大	34
基本施策３ 生涯学習を支える基盤の整備	36
（１）現状と課題	36
（２）めざす姿	37
（３）施策目標	37
（４）施策の方向性	38
重点施策 生涯学習の広報の強化	38
施策１ 施設と事業との連携	39
施策２ 生涯学習の推進機能の充実	41
施策３ 安心・安全に利用できる施設の環境づくり	42

第５章 計画の実現に向けて 43

1．計画の推進体制	43
2．計画の進行管理	44

資料編 45

第1章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の背景と目的

(1) 生涯学習をめぐる国と都の動向

国における生涯学習の考え方

「生涯学習」とは、人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習という意味で用いられます。また、人々が、生涯のいつでも、自由に学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会を「生涯学習社会」と呼び、その実現がわが国の教育行政の大きな目標となっています。

わが国において生涯学習に繋がる検討が始まったのは、経済の高度成長に伴う技術の進展や社会の複雑化の中で、生涯にわたる学習の必要性が強く認識されるようになった昭和40年代に溯ります。昭和40年にユネスコ成人教育推進国際委員会で生涯教育の構想が打ち出されたこともあり、昭和41年の中央教育審議会から検討が始められ、昭和56年には「生涯教育について」という答申が提出されています。さらに、昭和61年の臨時教育審議会では、「生涯にわたる学習は自由な意志に基づいて行うことが本来の姿」であるということから、生涯教育から生涯学習へと用語が一般に用いられることが多くなりました。これを受け、平成18年の教育基本法改正にあたっては、第3条に生涯学習が記載されています。

法改正に基づき、文部科学省の教育振興基本計画では、1期(平成20年)、2期(平成25年・現行計画)ともに、「生涯学習社会の実現」という目標が設定されており、これは平成30年の第3期計画答申にも、「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」として引き継がれています。

国における生涯学習行政の位置付けと近年の動向

生涯学習という用語自体は人が生涯にわたって行うあらゆる学習を含んだものですが、生涯学習の「行政」については、その全てを担うものではなく、「生涯学習の理念を実現するため、社会教育行政や学校教育行政等において個別に実施される教育に係る施策、首長部局において実施される生涯学習に資する施策等について、その全体を総合的に調和・統合させるための行政を固有の領域とする」として位置付けられています(平成25年第6期中央教育審議会生涯学習分科会論点整理)。また、同論点整理では、社会教育を「生涯学習社会の構築の中心的な役割を担う」ものともしています。これを踏まえると、生涯学習行政とは、中核となる社会教育行政、社会教育行政を中核に学校教育や首長部局の啓発・学習などの事業を調和・統合させる行政を焦点としたものと考えられます。

このうち、社会教育行政については、上記の生涯学習分科会の論点整理を深めるため、

「学びを通じた地域づくりの推進に関する調査研究協力者会議」が設置されており、平成 29 年にその論点整理が出ています。ここでのポイントは、今後の社会教育に期待される役割として「学びの成果を地域づくりの実践につなげる地域課題解決型学習」を明確に位置付けたこと、それを実現するため、「学校・首長部局・NPO・民間教育事業者等との多様な主体とのネットワーク化・パートナーシップの推進」、「地域課題に応じて学習活動を組み立て課題解決につなげることができる学びのオーガナイザー¹の養成」を打ち出していることです。こうした地域課題解決や地域づくりへの貢献という目標立て、あるいはそれを実現するための他行政領域との連携や官民の連携、市民協働の推進は、社会教育の個別分野である文化芸術（文化芸術基本法/文化芸術推進基本計画）、図書館（図書館法/図書館の設置及び運営上の望ましい基準）、スポーツ（スポーツ基本法/スポーツ基本計画）でも同様に進んでおり、生涯学習・社会教育全体の政策動向となっています。

一方、学校教育との連携については、平成 27 年に中央教育審議会答申として「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」が出されています。ここでは、目指すべき姿として、社会教育のフィールドにおいて、地域の人々や団体による「地域学校協働本部」を緩やかなネットワークとして構築し、学校との連携・協働を推し進めていくことが提言されています。この方向性は、平成 28 年策定の『「次世代の学校・地域」創生プランにも引き継がれており、地域学校協働活動の推進として、地域学校協働本部の整備の支援やその中核的な人材となる統括コーディネーターの育成、地域住民の参画の支援などの具体的な施策が打ち出されています。

都における動向

東京都の生涯学習審議会では、平成 17 年より、「地域教育プラットフォーム構想」を打ち出しています。これは、学校区単位での「地域教育」を生涯学習の基本として捉えた上で、学校・家庭・地域が協働し、子どもの育成・教育活動に取り組んでいくための共通の土台を整え、多様な担い手の参加の下に、地域の教育力を再構築していくための仕組みを作っていこうというものです（第 5 期審議会答申「子ども・若者の『次代を担う力』を育むための教育施策のあり方について～『地域教育プラットフォーム』構想を推進するための教育行政の役割～」）。

これに基づき、平成 24 年の第 8 期審議会では「子供・若者の『社会的・職業的自立』を目指した教育支援の総合的な方策について」を、また、平成 28 年の第 9 期審議会では「今後の教育環境の変化に対応した地域教育の推進方策について -地域教育プラットフォーム構想の新たな展開-」を建議しています。なお、平成 30 年には、地域教育プラットフォーム構想を引き継ぐとともに、国における地域学校協働活動の推進方針と「東京都教育施策大綱」の方向性を踏まえた「『地域と学校の協働』を推進する方策について」について、中間のまとめを出しています。

¹ 学びのオーガナイザーとは、同論点整理において、「住民の中に入り込み、住民や NPO、大学、企業等の様々な主体を結び付け、地域の資源や各主体が有する強みを活かしながら、地域課題に応じて『学び』や『実践』の場をアレンジすることにより地域課題を『学び』に練り上げ、課題解決につなげていく人材」と定義されています。

(2) 府中市の生涯学習

府中市の生涯学習の歩み

本市では、昭和 58 年、「府中市総合計画(基本計画)」の改定を行った際に、教育に関する主要な目標として、「生涯教育の推進」を掲げました。これに基づき昭和 60 年には「府中市生涯教育検討協議会」を設置し、同協議会の下、生涯学習に関わる各種施策が実施され、平成 5 年には生涯学習センターが開館、これに併せて本市の生涯学習行政は、生涯学習センターを中心に展開されることとなりました。また、平成 11 年には、本計画の前々計画となる「府中市生涯学習推進計画～市民カレッジの展開にむけて～」を策定しました。

続く平成 15 年には、「府中市社会教育委員会議」、「府中市公民館運営審議会」、「府中市生涯学習推進協議会」の機能を統合し、公募市民、有識者からなる、「府中市生涯学習審議会」を設置しました。現在に続くこの府中市生涯学習審議会の下、平成 21 年に、前計画となる「第 2 次府中市生涯学習推進計画」が策定しました。また、同審議会からは平成 29 年までに次の提言・答申を受けています。

第 1 期生涯学習審議会提言『「学び返し」の中から豊かな生涯学習を』(平成 17 年 3 月)

第 2 期生涯学習審議会中間答申『地域教育力を高めるための新しい生涯学習について』(平成 18 年 3 月)

第 2 期生涯学習審議会答申『「学び返し」を通じた地域教育力の向上～府中市生涯学習推進計画(第 2 次)策定にむけての見直しへの提言』(平成 19 年 3 月)

第 3 期生涯学習審議会答申『未来を託す子どもたちへ今こそ「学び返し」の実践を～地域・家庭からの第一歩』(平成 21 年 2 月)

第 4 期生涯学習審議会中間答申『第 2 次生涯学習推進計画の具体化に向けて(1)「学び返し」を実現するために』(平成 22 年 3 月)

第 4 期生涯学習審議会答申『「学び返し」の体制づくり～「おせっかい精神」の再発見～』(平成 23 年 3 月)

第 5 期生涯学習審議会答申『「学び合い教え合う「学び返し」～市民と行政の新たな協働を目指して～』(平成 25 年 3 月)

第 6 期生涯学習審議会答申『市民協働で生涯学習の充実を～「学び返し」で人がつながり 人を育てる～』(平成 27 年 3 月)

第 7 期生涯学習審議会答申『地域の教育力を活用した家庭教育支援のあり方/活動を支援すべき社会教育関係団体の定義及び当該団体に行う支援のあり方』(平成 29 年 3 月)

なお、上記提言・答申は、基本的に社会教育分野における生涯学習活動を対象とした内容となっておりますが、第 7 期においては、家庭教育支援のあり方に関連して学校・地域・家庭の連携についても検討しており、国における地域学校協働活動の推進方針と連動した方向性(生涯学習ファシリテーターと地域学校協働活動の地域コーディネーターとの連携や兼任など)について答申しています。

「学び返し」理念の確立

府中市生涯学習審議会および前期計画の最大の実績として挙げられるのが、本市独自の生涯学習の理念である「学び返し」という考え方の確立です。「学び返し」とは「市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくこと」を意味し、平成17年3月の第1期生涯学習審議会提言では次のように記載されています。

「学び」を「返す」とは、これら市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくことである。自分の体験してきたことや技術・技能を伝えていくこと、また学んだことを活用していくことは、人と人との間をつなぎ、環をつくりあげていくという双方向性と循環性をもつ。これからの生涯学習を考える時、まず市民の一人ひとりが自分自身の持っている豊かな力を改めて自覚、認識して、生涯学習から得たものを家庭や地域社会で実践していく動きを始めることが大切なのである。 「はじめに」より

第2次府中市生涯学習推進計画では、この「学び返し」の理念の確立を受け、計画の基本理念として「学び返しを通じた地域教育力の向上」を打ち出しています。

これに基づき、計画の基本目標としても、「学び返し」を広く位置づけています。最初に「1.学んだことを地域で生かす-『学び返し』の支援とネットワークの整備」を掲げ、また、「4.『学び』『学び返し』を迅速・適切につなぐ情報提供・相談体制の拡充」として「地域の担い手(ファシリテーター)の実現」を提言しています。ファシリテーターは、「5.推進体制の整備」において、市民との連携・協働および地域ぐるみの生涯学習推進体制の中心としても位置づけられています。

府中市の生涯学習の先駆性と第2次府中市生涯学習推進計画の課題

府中市生涯学習審議会が提言し、第2次府中市生涯学習推進計画の基本理念として掲げられた「学び返し」の考え方は、生涯学習の活動を、学ぶだけでなく、そこで身につけた力を地域や社会に還元していくことまで拡大した点において、平成29年に国が「学びを通じた地域づくりの推進に関する調査研究協力者会議」の論点整理で提示した「学びの成果を地域づくりの実践に繋げる地域課題解決型学習」に先行したものとなっています。また、「学び返し」を地域で進めていく上で、担い手としてファシリテーターを育成・活用するとし、そこを中核とした市民が主役の自立的な生涯学習のあり方を構想していた点も、同論点整理において提示された「学校・首長部局・NPO・民間教育事業者等との多様な主体とのネットワーク化・パートナーシップ」、「地域課題に応じて学習活動を組み立て課題解決につなげることができる学びのオーガナイザーの養成」とほぼ重なる考え方となっています。この意味において、平成17年という早い時期に「学び返し」の理念を確立した府中市の生涯学習は、極めて先駆的なものであったと評価できます。

一方、第2次府中市生涯学習推進計画の進展には、課題もあります。生涯学習活動全般については、指定管理者制度の導入などの民間活力の活用も順調に進んだことから、生涯学習センターを中心に極めて活発な状況を維持している反面、「学び返し」の実現においては、その中核として構想された生涯学習ファシリテーターの事業が、育成の段階に

とどまり、活用が十分ではありません。その結果、地域や社会への還元に直結する「学び返し」型の生涯学習の広がりも限定されたものとなっています。

この背景には、基本目標の「4.『学び』・『学び返し』を迅速・適切につなぐ情報提供・相談体制の拡充」「5.推進体制の整備」に当たる部分、市内の生涯学習全体を把握し、庁内連携や施設間連携を推し進め、その下に全体的な生涯学習および「学び返し」の広報などが十分ではなかったことが指摘されます。これは、平成25年第6期中央教育審議会生涯学習分科会論点整理で生涯学習行政の固有の領域とされた「生涯学習に資する施策等について、その全体を総合的に調和・統合させる」部分に当たるものでもあり、本計画では重点的に取り扱っていくことが必要となります。

(3) 本計画の目的

本計画では、上記の国や都の動向および本市の生涯学習の動向を踏まえ、次のように重点を置いた市独自の生涯学習のあり方を明確にし、今後の市の生涯学習の方向性を定めます。

市の上位計画に合わせた「学び返し」の理念の強化とそれに基づく生涯学習の活性化
「学び返し」の理念は、先に述べたように、市独自の生涯学習の概念であるばかりではなく、国の最新動向を先取りした極めて先駆的なものでもあります。これを踏まえ、本計画でも、「学び返し」を基本的な考え方としてその理念の発展を図りつつ、市の生涯学習の活性化を図っていくこととします。

本市では、平成 26 年 10 月 19 日、市制施行 60 周年記念式典において、「市民協働都市」とすることを宣言しました。また、平成 26 年からを計画期間とする第 6 次総合計画の基本構想を、「市が市民とともに協働して達成を目指す計画」として位置付け、さらにはその基本理念に「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」と定め、市民協働を中心とした地域づくりに取り組んでいます。

「学び返し」は、市民主体の生涯学習活動の確立を目指し、また、生涯学習で培った市民一人ひとりの力の社会への還元を目指しているという点で、こうした市民協働の方向性に非常に適合性の高いものとなっています。これを踏まえ、本計画では、これまで以上に「学び返し」の市民協働の側面を強化していくこととします。

生涯学習全体の統合・調和機能の強化

本市の生涯学習は、平成 5 年に生涯学習センターが開館して以来、主に生涯学習センターの運営にその焦点をあてて進んできました。しかし、「学び返し」の理念が浸透し、実践に移されていくためには、特定の施設だけに焦点を合わせるのではなく、市内の各事業や市内の各施設をはじめ、学校・市民団体・NPO 団体・学習グループ・民間企業など、地域全体での連携や協働が重要となります。これは、第 6 次府中市総合計画の前期基本計画でも目指されていた点ですが、地域協働の要となるべき生涯学習ファシリテーターの活用があまり進んでいないなど、大きな成果を生み出すには至っていません。

本計画では、こうした状況を踏まえ、また、生涯学習の固有領域が、家庭教育・学校教育・社会教育全体を含む生涯学習全体の統合・調和にあることに立ち戻って、各領域を横串にし、広報を始めとした全体の連携や協働を進める施策に一層の注力をしていくこととします。

ラグビーワールドカップ、東京 2020 大会を含む府中市全体の地域振興との連携

本市は、長い歴史文化を背景に、豊かな文化財や伝統行事、伝統芸能に恵まれた地域となっています。武蔵野の自然も美しく、また、文化施設やスポーツ施設などの生涯学習施設の整備も進んでおり、豊かな文化を楽しめる環境が整っています。こうしたことから、

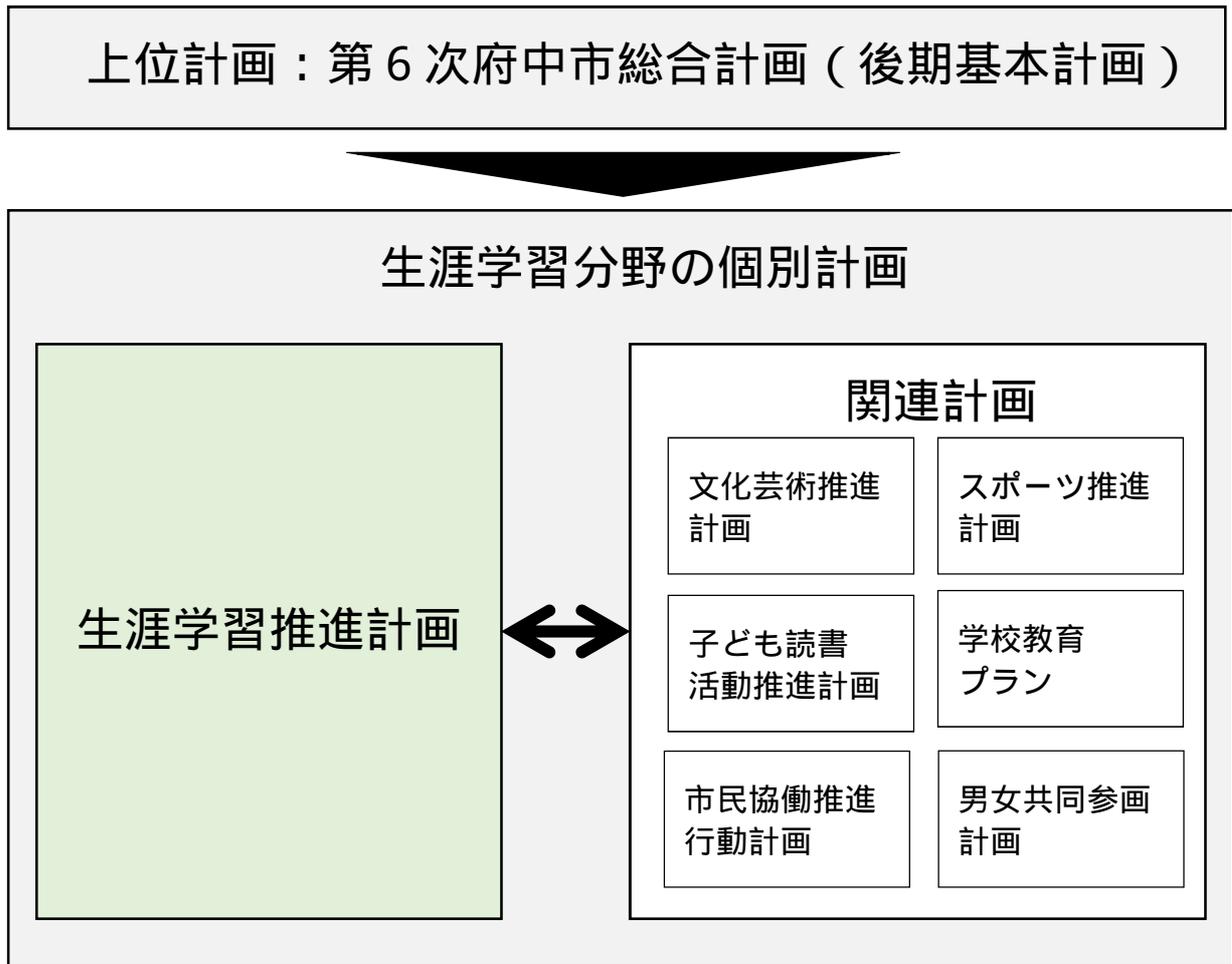
市民の郷土意識・コミュニティ意識は高く、市民主体の行事も多様に行われています。このような地域特性、市民の意識は、生涯学習活動を市民協働で実施するための非常に優れた条件となっており、実際、伝統文化の継承は、市の「学び返し」活動の代表的な事例ともなっています。

本計画では、こうした状況を踏まえ、市民の多くが興味・関心を持つ歴史文化や伝統行事、自然、文化などの「府中市ならでは」の領域を最大限に活用することにより、多くの市民を生涯学習活動や「学び返し」の活動に巻き込む契機としていくこととします。

本計画の初年度である 2019 年はラグビーワールドカップ 2019 が、次年度である 2020 年は東京 2020 大会(第 32 回オリンピック競技大会/東京 2020 パラリンピック競技大会)が実施される時期です。これに併せ、本市でも、ラグビーではイングランド及びフランスの公認チームキャンプ地に、東京 2020 大会ではオーストリアのホストタウンになる等、関連の事業が様々に進行している状況にあります。生涯学習や「学び返し」の普及にあたっては、こういった市民の大きな関心事となる事業との積極的な連携・協働を進め、多くの市民と協働していくこととします。

2 . 計画の位置づけ

本計画は、第6次府中市総合計画を上位計画とし、その他の分野別計画との整合を図り、府中市の生涯学習推進のために必要な施策を計画的かつ継続的に推進するものです。



3 . 計画の期間

本計画の期間は、2019年度から2026年度までの8年間とします。

	2016年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
総合計画	第6次府中市総合計画（2014-2021）						第7次府中市総合計画				
生涯学習推進計画	第2次府中市生涯学習推進計画（2009-2019）			第3次府中市生涯学習推進計画（2019-2026）							

4 . 計画策定の体制

本計画の策定に際しては、府中市生涯学習審議会において、計画の方向性や取組など、計画全般にわたり協議及び意見交換を行い、素案を作成し答申しました。本計画は、この答申に基づき策定しています。

また、市民を対象とした「府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査」を行うとともに、市内の生涯学習系施設や生涯学習サポーター登録者、生涯学習ファシリテーター養成講座受講者にヒアリング調査を実施しました。

府中市生涯学習審議会

府中市生涯学習審議会は、生涯学習に識見を有する委員 15 名によって構成されています。府中市教育委員会の附属機関として設置され、市民の生涯学習の振興に関する事項について調査審議を行い、その結果を答申します。

府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査

市民の生涯学習に関する意識や行動についての現状把握や施策検討に活用するため、市内に在住する満 18 歳以上を対象にアンケート調査を実施しました。

調査概要

調査対象：府中市在住の満 18 歳以上の中から、2,000 人を無作為に抽出

調査期間：平成 30 年 1 月 17 日（水）～平成 30 年 2 月 16 日（金）

調査手法：郵送による配布、郵送による回収

回収数・回収率：配布数 2,000 票、回収数 666 票、回収率 33.3%

内 容：生涯学習の現状について、府中市の生涯学習の施策に対する今後の意向について、生涯学習の成果について、「学び返し」について、など

生涯学習系施設・生涯学習サポーター・生涯学習ファシリテーター養成講座受講者へのヒアリング調査

市内の生涯学習系施設を対象に、生涯学習関連の事業を行ううえでの現状と課題や今後の事業の方向性などについて、また、生涯学習サポーター登録者と生涯学習ファシリテーター養成講座受講者を対象に、制度へのご意見や活動状況などについて、ヒアリング調査を実施しました。

調査概要

調査対象：生涯学習系施設 10 施設、生涯学習サポーター3 名、生涯学習ファシリテーター養成講座受講者 3 名

調査期間：平成 30 年 6 月 6 日（水）～平成 30 年 6 月 12 日（火）

調査手法：施設には直接調査員が出向いて事業担当者にインタビュー形式で聞き取りを実施。
生涯学習サポーターと生涯学習ファシリテーター養成講座受講者は、各 3 人に集ってもらい、それぞれグループインタビュー形式で聞き取りを実施。

内 容：（施設）事業の実施状況、市民の参加状況、事業の企画方針、事業実施にあたっての課題、市の生涯学習施策について、「学び返し」について、他施設・団体等との連携について、登録団体・ボランティア等について、今後の方向性、など

（生涯学習サポーター登録者）

登録のきっかけ、登録後の活動状況について、制度について、市の生涯学習施策について、など

（生涯学習ファシリテーター講座受講者）

受講のきっかけ、受講した感想、活動状況、市の生涯学習施策について、など

第2章 府中市の生涯学習を取り巻く現状と課題

1. 府中市の生涯学習施設の現状

(1) 生涯学習系施設の設置状況

本市では、生涯学習施設として、生涯学習センターを中心に、図書館（中央図書館および地区図書館12館）、地区ごとの文化センター（11館）、市民会館（ルミエール府中）、市民活動センター「プラッツ」、専門文化芸術施設（府中市美術館、府中の森芸術劇場）、博物館・資料館（府中の森博物館、ふるさと府中歴史館、国史跡武蔵府中熊野神社古墳展示館）、女性センター、スポーツ施設（市民球場・野球場、庭球場、郷土の森総合体育館・地域体育館、プール、サッカー場、ゲートボール施設他）などを整備しています。

近隣他市と比較してみると、大規模な生涯学習センターが整備されている、専門の文化芸術施設として本格的な美術館や2,000席級のホールが整備されている、スポーツ関連の施設数が多く、また個別施設の規模も大きい、という点で明らかに差があり、施設的には、多摩地域において、例外的に恵まれた地域となっています。また、生涯学習センター、ルミエール府中、市民活動センター「プラッツ」など主要な施設では指定管理者制度が導入され、夜10時までの夜間開館が実現しているなど、運営の柔軟性の点でも先進的となっています。

府中市内の生涯学習系施設の概要

施設	開館時間	
生涯学習センター	午前9時～午後10時 (図書館は平日午前9時～午後7時、土・日・祝日午前9時～午後5時。体育施設は、午前9時～午後9時半)	
図書館（13館）	中央図書館	午前9時～午後10時(利用登録・レファレンスは午前9時～午後7時)
	地区図書館（12館）	午前9時～午後5時(生涯学習センター図書館は平日午前9時～午後7時、土・日・祝日午前9時～午後5時)
文化センター（11館）	午前9時～午後9時(延長の場合、午後10時まで)	
ルミエール府中（市民会館）	午前9時～午後10時	
府中市市民活動センター「プラッツ」	午前8時30分～午後10時	
府中市美術館	午前10時～午後5時	
府中の森芸術劇場	午前9時～午後10時	
府中の森芸術劇場分館	午前9時～午後10時	
府中の森博物館	午前9時～午後5時	
ふるさと府中歴史館	午前9時～午後5時	

施設	開館時間	
国史跡武蔵府中熊野神社古墳展示館	午前 9 時～午後 5 時	
男女共同参画センター	午前 9 時～午後 10 時	
市民陸上競技場	午前 9 時～午後 9 時	
市民球場・野球場（8 か所）	施設ごと、季節ごとに異なる	
庭球場（14 か所）	施設ごと、季節ごとに異なる	
体育館（8 か所）	午前 9 時～午後 9 時	
プール（9 か所）	郷土の森総合プール（府中市民総合プール）	午前 10 時～午後 5 時
	地域プール（7 か所）	午前 10 時～午後 5 時 30 分 <small>（ナイト開催期間中は、市民プールのみ午後 8 時まで）</small>
	温水プール	午前 9 時～午後 9 時 20 分
サッカー場（4 か所）	施設ごと、季節ごとに異なる	
ゲートボール場（3 か所）	-	
その他体育施設（3 か所）	-	

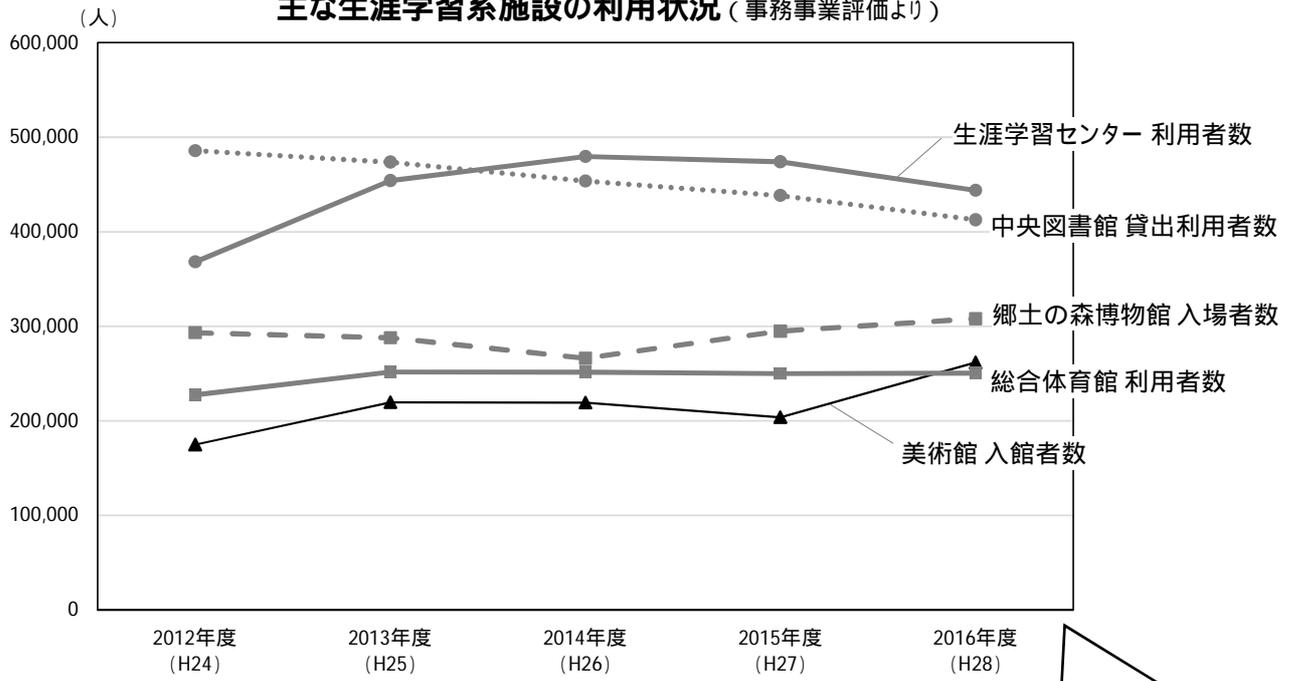
平成 29 年度のグラフ追加に伴い、文章の変更をします。

（2）生涯学習施設の利用状況

本市の各生涯学習施設の述べ利用人数（平成 29 年 7 月に開館した市民活動センター「プラッツ」を除く）を見ると、平成 28 年では 750 万人以上にも及びます。これは、市民一人当たり直すと年間 30 回近い数値であり、非常に高いものとなっています。施設へのヒアリング調査においても、「講座実施において定員割れは殆どない」という回答が各施設から上がっており、いずれの施設も基本的に活発に利用されている状況となっています。

なお、個別の施設については、年度ごとに増減がありますが、多くは臨時的要因によるものとなっており、長期的に利用者数が大きく減少している施設はありません。

主な生涯学習系施設の利用状況（事務事業評価より）



2017年度 (H29) を追加し、2012年度 (H24) を削除予定です。

2. 市民の生涯学習の実態（市民アンケート調査及び市内施設ヒアリング結果より）

市民アンケート調査の詳細は巻末の資料編を参照

（1）市民の生涯学習の現状

市民の生涯学習の実施状況

市民の「生涯学習」という言葉の認知は、「知っていた」64.9%、「聞いたことはあるが意味は知らなかった」26.1%となっており、「知らなかった」という比率は7.2%にとどまっています。（市民アンケート問1より）また、生涯学習活動の実施率をみると、何らかの生涯学習活動をしている比率は80.3%に上っており、非常に高い比率となっています。ただし、属性別にみると、していない比率が「男性」で29.7%、「40代」で26.3%、「有職（パート/アルバイト以外）」で25.3%と全体平均より高くなっており、就労者があまり生涯学習活動を実施できていない状況が指摘されます。（市民アンケート問2より）

また、各施設に対するヒアリングでも、高齢者や親子向けの企画が多く、就労者層向けの企画は少なくなっているという回答がありました。

生涯学習活動の内容

実施している生涯学習活動の内容では「健康・スポーツ」関連が55.3%で最も多く、次に「趣味に関するもの」の42.2%、「仕事をするうえで必要な知識・技能」の23.9%と続いています。年齢別では、若年層では「健康・スポーツ」「趣味」「教養」が多く、30代では「仕事」「教養」「育児」が多いという結果になっています。（市民アンケート問2より）

生涯学習の方法

生涯学習の方法では、「自宅での学習活動」が55.6%と最も高くなっていますが、次に「図書館、博物館、美術館の利用」の40.9%、「生涯学習センター、文化センターなどにおける講座や教室」の31.4%が続いており、市の生涯学習系の施設が、市民の生涯学習活動の実施において、大きく貢献していることがわかります。（市民アンケート問3より）

利用施設

生涯学習活動を実施している市民の中で最も利用率が高い市の施設は「ルミエール府中（図書館）」の27.9%となっており、次に「地区図書館」の25.1%、「文化センター」の21.6%、「生涯学習センター（体育施設）」の16.4%となります。なお、生涯学習センター内のいずれかの施設を使った比率は35.1%でルミエール府中のいずれかの施設を使

った比率の34.0%を若干上回っています。(市民アンケート問6より)

市の生涯学習事業への参加意向

全体の80.8%が市の生涯学習事業に「参加したい」と回答しており、非常に参加意向が高い状況です。年代別にみると、「参加したいと思わない」という回答が全体平均より10%以上高いのは80代以上の28.6%に限られており、また、有職層(パート/アルバイト以外)で79.5%、有職者(パート/アルバイト)で86.0%が「参加したい」と回答するなど、現実の生涯学習の実施状況に関わらず、市民のほぼ全てで高い参加意向が見られます。(市民アンケート問10より)

(2)「学び返し」について

「学び返し」の認知度

学び返しを「知っていた」のは5.7%、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」は7.5%となっており、認知度は、あわせて13.2%にとどまっています。一方、「知らなかった」という回答は84.5%と極めて高くなっています。(市民アンケート問20より)

また、施設ヒアリングの結果でも、「学び返し」が施設現場であまり浸透しておらず、そのため、「学び返し」を意識した事業の実施が十分に行われていない傾向があります。

実施率と意向

「学び返し」をしたことがあるという回答は12.2%にとどまります。一方、自らが生涯学習で身につけた成果を自分以外に活かしたいという意向(=「学び返し」をしたいという意向)は80.0%と非常に高くなっています。(市民アンケート問21より)

市民一人ひとりには「学び返し」をしたいという意向があるにも関わらず、うまくそれが実施に繋がっていないことが読み取れます。

学び返しをしたことがない理由

「学び返し」をしたことがない理由で最も多いのは「機会がない」の52.1%で、次に「教えるものがない」の33.3%、「時間が取れない」の31.6%と続いています。(市民アンケート問24より)

市民の多くについては、実際に生涯学習の成果を社会や地域に還元する機会をうまく提供することができれば、「学び返し」の活動に参加してもらえる可能性が高いと考えられます。

学び返しを促進するための手段

「『生涯学習』を通じて身につけた知識・技能や経験を、自分以外のために活かすには、どのようなことが必要だと思いますか」という質問に対して、最も回答が多くなっているのは、「地域活動・ボランティアの情報提供の充実」の51.2%で、僅差で「知識・技能や経験を活かす人と活動の場を結ぶ人の充実」の51.0%が続き、3番目には「人材登録制度の充実」の25.7%が続いています。（市民アンケート問18より）

これを踏まえると、まず重要なのは広報や情報提供体制およびその基盤となる生涯学習関連の施設・機関・団体などとの連携であり、次に生涯学習ファシリテーターの活躍、さらには生涯学習サポーター登録制度ということになります。こうした施策の充実が市民を「学び返し」に導いていく重要なポイントとなっていくと考えられます。

学び返しのテーマ

市民に、市の特徴を活かした「学び返し」のテーマについて聞いたところ、「郷土史学習/お祭り等の伝統文化継承」が36.1%と非常に多く、次にかなり離れて「生涯学習・学び返しのPR」の10.8%、「イベント形態の改善」の10.2%、「自然体験」(9.0%)、「市内ツアーやマップづくり」(6.0%)、「育児・高齢者福祉・地域づくりなどの活動」(6.0%)、「文化・趣味・教養」(6.0%)という回答が得られました。（市民アンケート問26より）

これを踏まえると、郷土史やお祭りなどの伝統文化継承のテーマ活用や、PR手段の工夫、誰もが参加しやすいイベントの企画などが、「学び返し」に多くの市民を巻き込んでいくために有効と考えられます。

生涯学習サポーターへの登録希望

市民に生涯学習サポーターへの登録希望を聞いたところ、「ぜひ登録したい」2.3%、「登録してもよい」35.7%となっており、あわせて38.0%に登録意向があるという結果が得られました。また、属性別にみると男性で「ぜひ登録したい」3.0%、「登録してもよい」45.9%、有職（パート/アルバイト以外）で「ぜひ登録したい」3.0%、「登録してもよい」47.1%となっており、男性でサポーターに登録したい・登録してもよいという意向が高いことがわかります。こうした就労者層の男性なども参加しやすい制度としていくことが「学び返し」の促進にとって有効となると考えられます。一方、女性では、「登録したくない」が62.4%と過半を超えており、女性が登録しやすい・登録したくなる工夫をしていくことが今後望まれます。（市民アンケート問28より）

(3) 生涯学習実施上の課題

市の生涯学習施設利用上の課題

市の生涯学習施設を利用する上での問題点としては、「利用に関する情報が少ない」が21.7%で最も多く、次に「施設の場所が利用しづらい」(19.9%)、「興味がある講座や教室がない」(18.4%)、「予約が取りにくい」(16.5%)と続いており、広報が最大の課題となっていることがわかります。(市民アンケート問7より)

施設ヒアリングでも、各施設とも、事業の告知・広報の主な手段は施設ごとのホームページやチラシ、ポスターとなっており、生涯学習関係の情報をまとめて広報できる手段がないことが課題となっていました。まずは、こうした広報面での課題改善が求められます。

生涯学習をしていない理由からみた課題

生涯学習を現在していない理由として最も多いのは「忙しくて時間が取れない」の45.3%で、また「特に必要と考えていない」も28.9%と高くなっています。一方、こうした個人の事情や判断以外での理由をみると、「必要な情報の入手が難しい」が28.9%と最も高くなっています。(市民アンケート問8より)

この点からも、生涯学習の広報・情報提供の強化が求められます。

充実してほしいサービスからみた課題

生涯学習活動を盛んにするため充実して欲しい市のサービスにおいても、最も多いのは「生涯学習講座の内容・回数等の充実」(55.1%)を押さえて、「情報の発信の充実」の56.6%となっています。(市民アンケート問13より)

生涯学習全体に対する意見からみた課題

市の生涯学習事業についてのご意見・ご提案でも、最も多かったのは、「広報の充実」の26.7%となっています。具体的な意見としては、ホームページの改善(情報量が少ない、ホームページで市内のサークル・チームなどの紹介もして欲しいなど)、SNSの情報拡充や対応プラットフォーム拡大(Facebookもやって欲しい)、広報ふちゅうの掲載量拡大、チラシ・ポスターの拡充や商業施設での配布(一部生涯学習施設だけで配っても一般の市民の目にふれない)、市民の口コミ促進、ふちゅこまの活用をもっと進めるべき、学び返しが広報されていないなどがありました。

また、属性別にみると、「広報の充実」については、特に若い世代で意見が多くなっています。(市民アンケート問29より)

第3章 計画の方向性

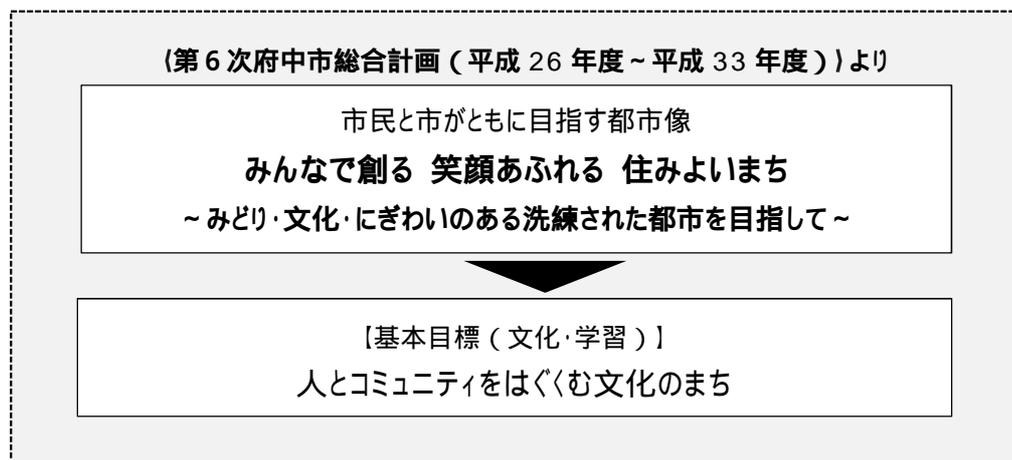
1. 基本理念と基本目標

(1) 基本理念

府中市の生涯学習に関する施策の推進に当たっては、第6次府中市総合計画の文化・学習分野で基本目標に掲げている「人とコミュニティをはぐくむ文化のまち」を基本理念とします。

(基本理念)

人とコミュニティをはぐくむ文化のまち



第6次府中市総合計画では、平成26年10月19日、府中市制60周年記念式典で宣言された「市民協働都市宣言」と軌を一にし、市民との協働を重視し、「みんなで創る」という文言を市民と市がともに目指す都市像として組み込んでいます。

今回の生涯学習推進計画においても、生涯学習活動の振興に当たって、市民協働との連携を強く意識していくものとしていきます。

(2) 基本目標

第6次府中市総合計画では、生涯学習分野における重点プロジェクトとして、「様々な分野で市民の手によってまちが育つことを目指し、地域での多様な生涯学習の場とそれを還元する『学び返し』の機会を充実させるとともに、地域で活躍できる環境づくりを進めます」と規定されています。本計画では、これを踏まえ、平成17年に府中市生涯学習審議会が提言した府中市独自の生涯学習についての考え方である『学び返し』の普及と拡大を基盤とした下記の目標を基本目標として設定し、それに基づく基本施策を実施します。

(基本目標(仮))

みんなが学び 地域に返す
ひとと地域がともに育つ 「学び返し」のまち 府中

基本目標の、「みんなが学び」は、以前から府中市に住んでいる方や新しく住民になった方、高齢者、若年層、就労者、子育て中の方など市民みんなが学べる環境を整備することを目指しています。

引き続く文言の「地域に返す」は、学習した内容を地域に活かす『学び返し』の考えを普及させるとともに、そのための人材育成、さらには返すための活躍の場を拡大することで、生涯学習を基盤とした全市の市民協働を進めていく考えを示しています。

続く「ひとと地域がともに育つ」は、人生100年時代を踏まえた個人としての成長と、歴史文化があり、けやき並木など豊かな緑に囲まれた府中市ならではの地域の振興を、「学び返し」の地域教育力で実現するという市全体の進むべき方向性を提示しています。特に重要なのは、生涯学習を個人の中にとどめるのではなく、府中の地域的な課題を解決し、あるいは、府中の特色ある地域づくりを進めていくことと繋げていくことです。これにより、市民協働での豊かなまちづくりを目指します。

上記の基本的な考え方に基づき、今回の生涯学習推進計画では、「学び返し」による地域の教育力とそれを基盤とした市民協働力の向上の実現を目指していきます。

この実現を支える3つの基本施策を以下のように設定します。

(基本施策)

基本施策1 誰もが学べる環境づくり

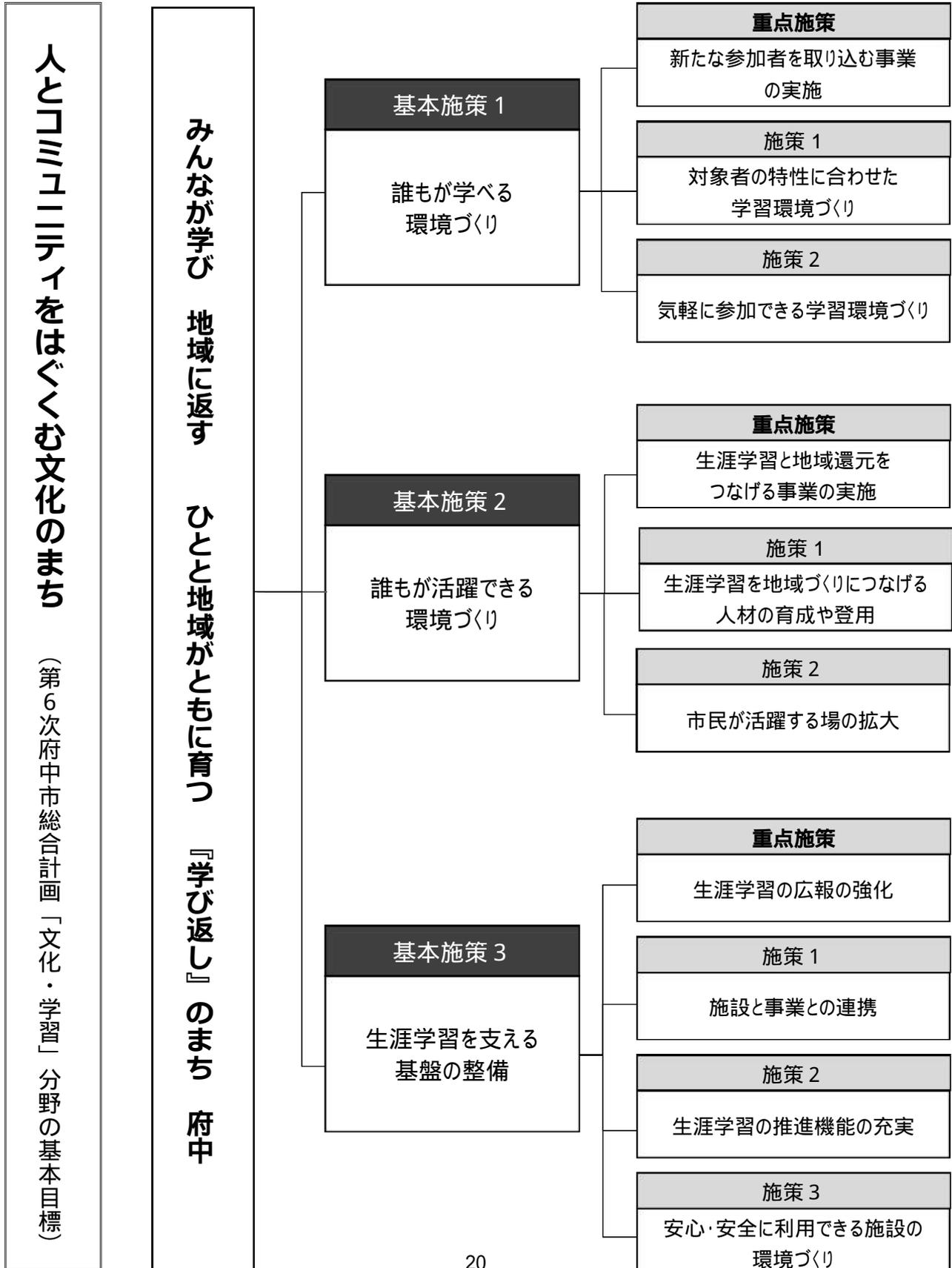
基本施策2 誰もが活躍できる環境づくり

基本施策3 生涯学習を支える基盤の整備

2. 施策体系

基本理念のもとに基本目標を設定しています。基本目標には3つの基本施策があります。それぞれの基本施策には重点施策と重点施策に関係の深い具体的な施策があります。

<基本理念> <基本目標(仮)>



第4章 具体的な施策の展開

基本施策 1

誰もが学べる環境づくり

(1) 現状と課題

市民の生涯学習活動は、全体としては活発です。例えば、市の生涯学習講座の参加者が基準年¹である2011年の3倍以上に拡大しています。

一方、市民アンケートで生涯学習センターや文化センターなどにおける講座や教室の参加者の属性をみると、高齢の方や家事専業の方などの参加率が高い一方、若年層や就労者層の参加率が低い傾向がみられます。また、ヒアリング結果からは、居住年数が長く、市の生涯学習事業をよく知っている方では参加率が高い一方、新しく住民になった方の参加が少ない傾向があることもわかりました。

この傾向から判断すると、以下の要因を考えることができます。

若年層や就労者層向けの内容の生涯学習事業が少ない。もしくは提供時間や実施場所が不向きである。

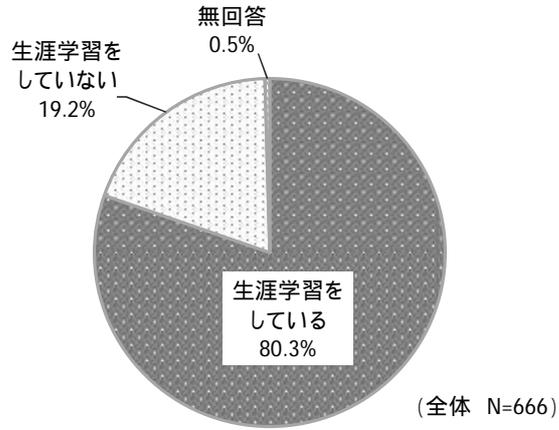
新しく住民になった方に対しての生涯学習事業の情報が十分に伝わっていない。もしくは参加のきっかけがつかみにくい状況がある。

このうち、¹については、生涯学習センターやルミエール府中、市民活動センター「プラッツ」などで、指定管理者制度を導入することにより、開館時間の延長（夜10時までの夜間開館）を行うなどの対応は実施しています。しかし、今後は、時間の改善だけでなく、情報提供のあり方の工夫や、講座内容の変更・改善、実施場所の見直しなどを進めていく必要があります。²の生涯学習に参加できていない層の取り込みについては、広報手段の検討や、初めての方が参加しやすい事業の企画を検討していきます。

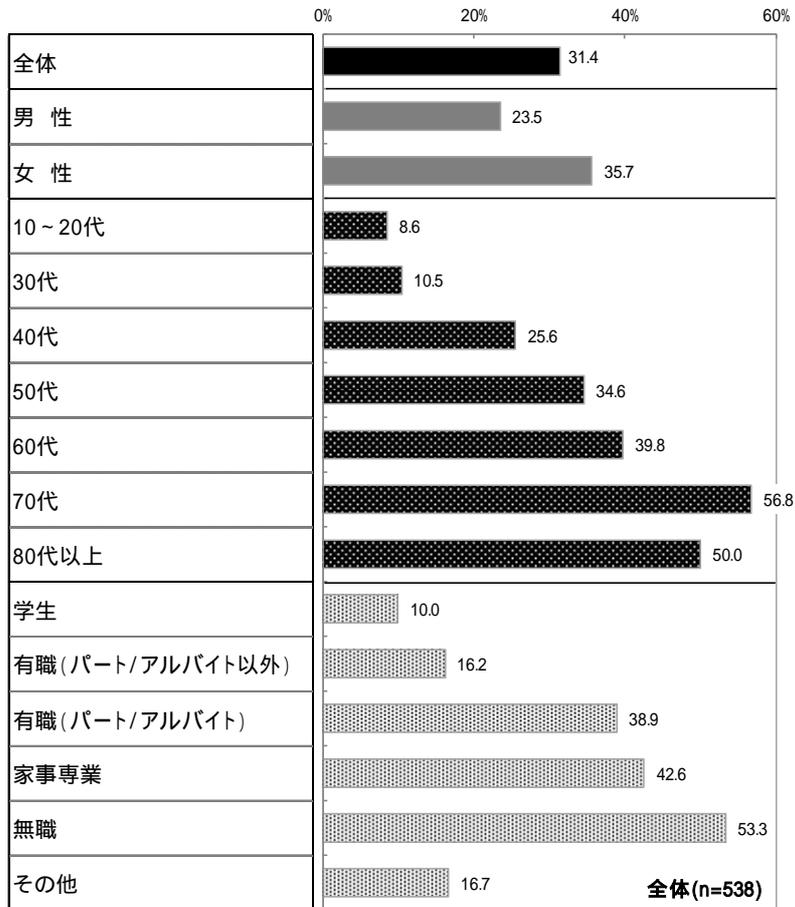
この他、生涯学習関連施設については、市民アンケートにおいて高齢者などの健康面に不安がある人から、利用しやすさを高めてほしいという意見や、育児中の方から、乳幼児連れでは参加しにくいという意見が出ています。ここについての対応も推進していきます。

¹ 基準年とは、第6次府中市総合計画前期基本計画策定の年を指します。

生涯学習活動の実施率



生涯学習センター、文化センターなどの講座や教室での生涯学習実施率



(2) めざす姿

年齢の違いや性別の違い、就労の有無、居住年数の違いなどに左右されず、全ての市民が、対象者ごとの興味・関心にかなう生涯学習活動に熱心に取り組んでいる年齢などによる健康面での不安や、育児などで行動の制限があっても生涯学習活動に参加しやすい環境が整っている

(3) 施策目標

「誰もが学べる環境づくり」を進めることで、市の生涯学習講座への参加者数を年間76,000人まで増やしていくことを目標とします。

指標名 (単位)	指標の説明	基準値	現状値	2026年度 目標値
生涯学習講座への参加者数 (人)	生涯学習講座の年間の延べ参加者数です。増加を目指します。	21,307人 (2011年度)	70,187人 (2017年度)	76,000人

基準値は、生涯学習センターが市直営時の人数

(4) 施策の方向性

重点施策 新たな参加者を取り込む事業の実施

現在、生涯学習活動への参加が少ない層の需要を掘り起こすため、対象者ごとに、興味・関心の方向性や、どのような形であれば参加しやすいかを把握し、対象者の特性に合わせた生涯学習事業を企画します。

企画にあたっては、生涯学習センター事業としての展開の他、他分野との連携を検討するとともに、多様な市民の意見を講座企画に活かす方法を考えていきます。

事業の取組

取組1 生涯学習自体の普及促進を目指した新たなテーマの事業

- 市民の多様なニーズ、新たなニーズに対応した生涯学習講座

取組2 参加率が低いライフステージを取り込む事業

- 若年層・就労者層向け事業の企画（能力拡大に繋がる夜間帯の事業など）

取組3 生涯学習活動に参加できていない方、新しく住民になった方向けの事業

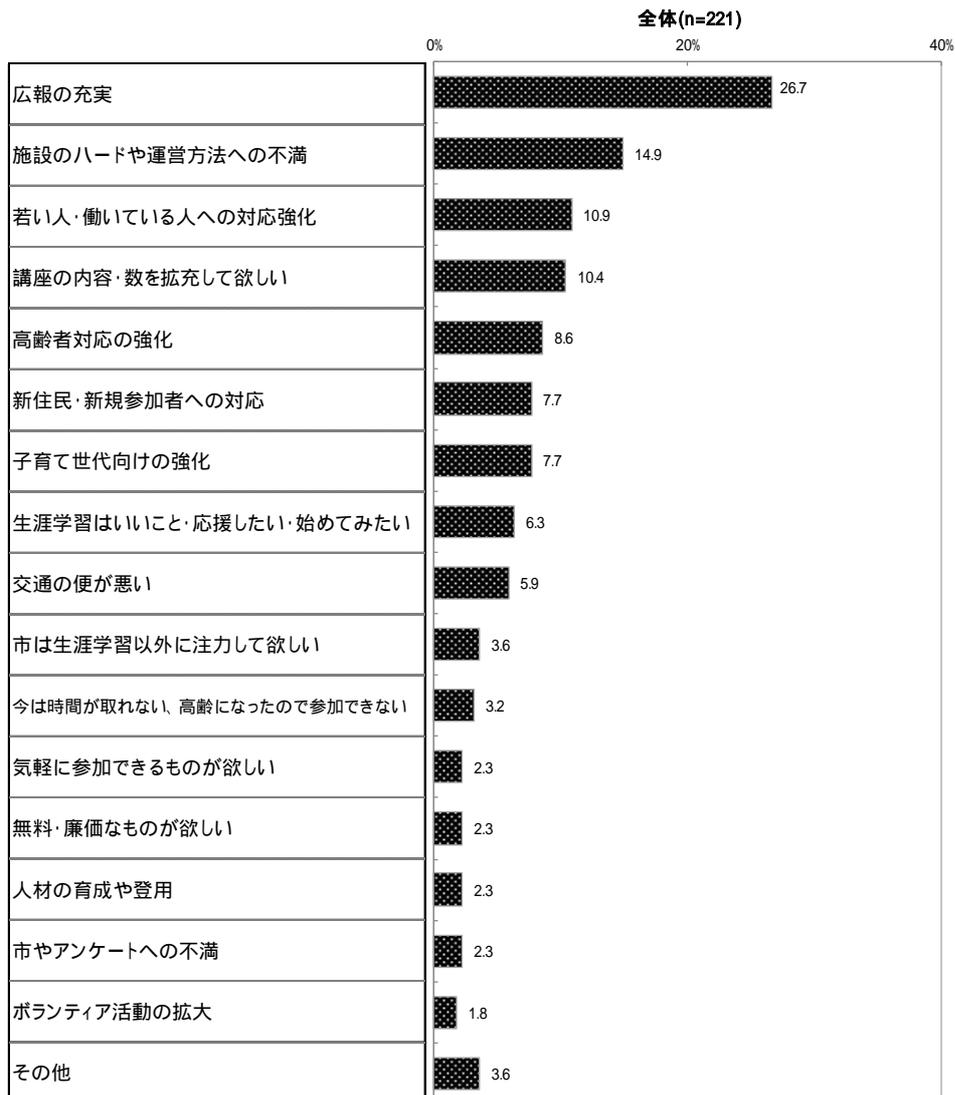
- 気軽に参加できる講座（無料で体験できる、予約なしで参加できる など）

施策1 対象者の特性に合わせた学習環境づくり

市の生涯学習事業については、全体としては非常に活発な参加がある一方、先に述べたように、若年層や就労者層の参加が少ない傾向がみられます。また、アンケート調査でも、市民から、「若い人・働いている人への対応強化」「高齢者対応の強化」「子育て世代向けの対応強化」など、それぞれのライフステージに合わせて、参加しやすい、参加したくなる生涯学習施策を行ってほしいという声が様々に上がると同時に、生涯学習に現在参加していない人の18.8%が「講座の内容、実施時期、時間が合わない」と回答しています。

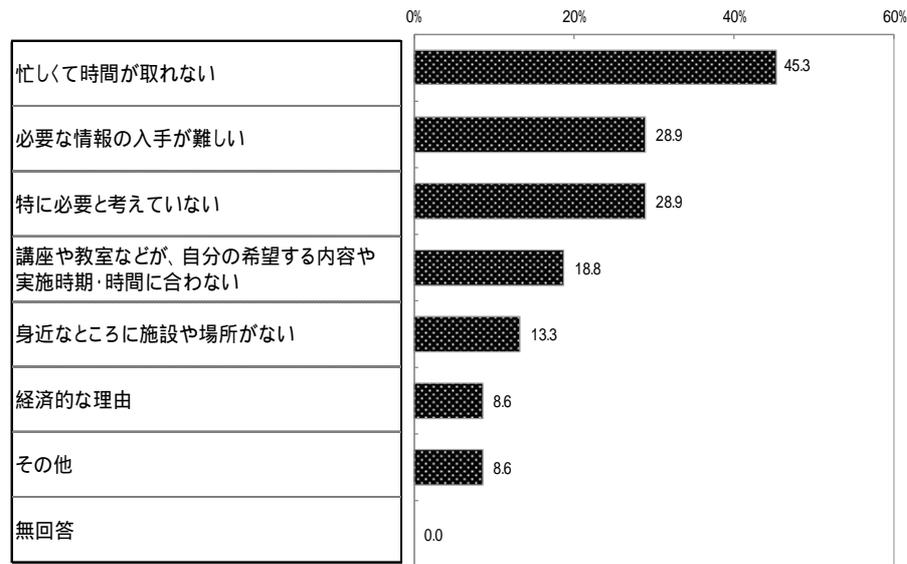
これを踏まえ、若年層、就労者、高齢者、子育て世帯などそれぞれのライフステージに合わせた参加しやすい環境づくりや、興味を持つ内容・テーマでの生涯学習の講座提供を行っていきます。また、これを効果的に実施するため、市民団体などとの連携や協働も広げ、市民の力、民間活力の活用を進めていきます。

市の生涯学習事業についてのご意見、ご提案



「生涯学習」をしていない理由

全体(n=128)



主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
全市的家庭教育学級	主に幼児をもつ保護者を対象に、託児を付けた講座を実施する。	子どもを社会全体で育むため、学校以外の家庭でも教育力の充実を図る必要がある。それに伴い、家庭教育を支援するため、親等に対する学習の機会を提供する。託児も設置し、子育て中の親が参加しやすい講座を目指し、毎年4回の実施を目標とする。
知的障害者学級(あすなる学級)	18歳以上の知的障害者を対象に月2回開程度催し、障害者の学習、スポーツの機会を確保する。また、この事業に参加するボランティアの育成、活用を図る。	軽スポーツやボランティア活動、調理実習等の活動を通して障害者の自立を目指す。また、ボランティアが企画する事業も取り入れ、市民協働で実施する。年15回以上の開催を目標とする。
公民館講座	市内11か所の文化センター内にある地区公民館で教養講座、趣味実用講座、料理講座、家庭教育学級を実施するほか、親子のふれあいを求めて、映画会を開催する。また、全市的には、憲法講演会、家庭教育学級を実施する。	市民のニーズに合わせた講座を実施する。また、家庭教育支援の一環として親子のふれあいの場を提供していく。地区公民館講座60事業以上を目標とする。
けやき寿学園	60歳以上を対象に、政治、経済、文化、芸術など、市民のニーズをとらえ、プログラムを作成し実施する。	対象者のニーズに合わせて無料講座を開催する。
ふちゅうカレッジ 出前講座	市民のリクエストに応じて市職員が講師となり、市政の様々なテーマについて講義する。	市民の多様なリクエストに応じられるよう講座を開催し、市民の教養の向上に努めていく。目標：実施件数40件、参加者1300人。
ふちゅうカレッジ 100単位	対象となる学習講座を受講し、100単位を修得された方に生涯学習学習士の称号と修了証を渡す。	地域社会に学びを還すことを目的としているため、「学び返し」につながるように市民の知識や経験の機会の確保に努める。

施策2 気軽に参加できる学習環境づくり

市民アンケートに寄せられた声として、7.7%の方が、新しい住民や新しい参加者が参加しやすい生涯学習としてほしいという声を上げています¹。また、現在生涯学習をしていない理由として、「忙しい」という回答が45.3%に上がっています²。自由回答記述などをみると、「忙しい」という回答の中には、忙しいため定期的に時間が取れない、予約をしても行けるかどうかかわからないといった方も含まれており、全く時間が取れないというより、予め計画的に時間を空けられないために生涯学習事業の参加に踏み切れない方がかなりいることが想定されます。そういった状況に対する対応を進めていくことで、生涯学習の参加率をあげていくことができると考えられます。

上記の状況を踏まえ、現在、生涯学習に参加できていない層や新たに住民になった層を巻き込んでいくため、幅広い市民が興味をもつテーマの活動およびその広報の充実や、時間がある時に気軽に参加できる講座などを行っていきます。

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習センター スポーツ施設	体育室：卓球、バドミントン、バスケットボールなど利用日を決めて実施する。 トレーニング室：各自の健康状態に合わせたトレーニングを実施する。 温水プール：水泳技術と健康増進運動を図るため、障害者専用コース、ワンポイントレッスンなどを実施する。	体育室の一般開放では、だれでも利用しやすい環境を整える。その他水泳教室などを開催し、技術面でもサポートできるよう工夫する。
みんなのスポーツ day	体育の日に、広く市民にスポーツに親んでもらい、健康とスポーツについての理解と関心を深め、スポーツ活動に対するきっかけづくりを図る。	各地域体育館でみんなのスポーツ day を開催する。
一般健康教室	生活習慣病、健康増進、健康に関する正しい知識の普及を目的に、講話、相談、試食、試飲などを実施する。	生活習慣病、健康増進、健康に関する正しい知識の普及を推進し、個人の取り組みに止まらず地域全体でソーシャルキャピタルの醸成による健康づくりを目指す。
郷土の森博物館展 示会事業	ゴールデンウィーク、夏休み、梅まつりなどの時期に、メインの特別企画展示会の内容を毎年変えて実施し、日頃、見ることのできない展示物にふれることにより、学習の幅を広げる。	多くの方に興味を持っていただける、魅力的な内容の企画展及び特別展を開催し、来館者数の増加につなげる。
国際交流サロン運 営事業	市民と在住外国人との交流の場の提供や、日本語勉強会を開催し、世界のさまざまな国の人たちが集まって自由に談話をしたり情報を交換できるよう実施する。ボランティアの確保と、気軽に立ち寄れるよう開かれた交流の場を目指す。	在住外国人の増加に対応して、日本語学習や文化交流活動に参加できるボランティアの確保を目指す。また、市民が国際交流に参加し、多文化共生への理解を深められる企画の実施を目指す。

1 25 ページのグラフ「市の生涯学習事業についてのご意見、ご提案」参照

2 26 ページのグラフ「生涯学習をしていない理由」参照

(1) 現状と課題

府中市の生涯学習事業が、市民協働によるまちづくり（第6次総合計画で掲げられた「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」）に繋がっていくためには、学習の成果が学んだ個人の中にとどまるのではなく、市民協働や地域連携に基づく府中の地域振興、豊かな府中づくりにつながるものとなっていく必要があります。この基盤となるのが、平成17年3月に府中市生涯学習審議会が提言した府中市独自の生涯学習の理念である「学び返し＝市民一人ひとりが持っている力を社会に還元していく」という考え方です。第2次府中市生涯学習推進計画では、上記の理念の確立に加え、「学び返し」を、生涯学習分野にとどまらず、地域全体への還元に結びつけていくための仕掛け作りとして、生涯学習サポーター制度や生涯学習ファシリテーターの育成・活用が盛り込まれたものとなっていました。この方向性は、その後も、第6次府中市総合計画に継承されています。

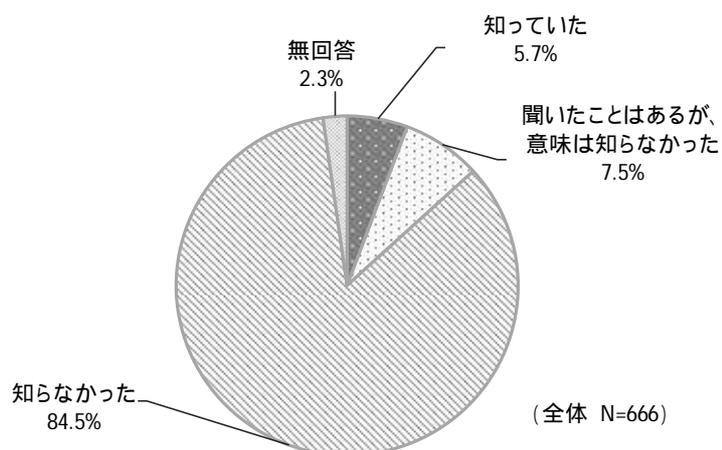
しかし、市民アンケートの結果をみると、「学び返し」についての認知度は低く（「知っていた」5.7%、「聞いたことがあるが意味は知らなかった」7.5%）、市民に「学び返し」の考え方が普及しているとは言えない状況にあります。

「学び返し」は、府中市独自の理念です。この考え方を市全体に普及し、それによって、府中市の生涯学習を、市民協働による豊かな府中市の地域づくりに繋げていくためには、「学び返し」が具体的にどのような活動であり、どんな充実感をもたらすものであるかを具体的なエピソードで広報し、そこで興味や共感をもった市民に対して、「学ぶ」だけでなく、その成果を地域に「返す」場を実際に用意していくことが求められます。

上記の事情を踏まえ、本計画では、様々な分野で市民の手によってまちが育っている状況を目指します。従って、「学び返し」の機会を充実させること、すなわち市民が地域で活躍できる環境づくりを進めることがポイントになります。

具体的には、市民が持つ知識と技能を地域に積極的に活かす場を創り出し、市民の知識と技能を地域に還元する事業を実施することです。さらに学びを求めている市民を学びの場へ積極的にリードできる環境づくりも不可欠になります。

「学び返し」の認知度



(2) めざす姿

年齢の違いや性別の違い、就労の有無など社会での働きの違いなどに制限されず、すべての市民が得た知識や技能を、求める人々に還元する生涯学習活動に取り組んでいる。

生涯学習活動を基盤とした府中市全体での市民協働が活性化している。「学び返し」の理念の下、府中市で生涯学習活動を経験した人の多くが、そこで身につけた知識や技能を、豊かな府中市の地域づくりへ還元している

(3) 施策目標

「学び返し」の理念の普及を進め、また地域に還元する活躍の場を市民に提供することを通じて「学び返し」の実践を進めることで、「学び返し」の認知度を30%以上まで高めていくことを目標とします。

また、生涯学習活動内での「学び返し」活動の1つである生涯学習サポーターへの登録者数を100人以上にすることを目指します。

指標名 (単位)	指標の説明	基準値	現状値	2026年度 目標値
「学び返し」認知度	府中市民による「学び返し」の認知度です。上昇を目指します。	-	5.7% (2017年度)	30%以上

平成29年度「府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査」より(2026年度目標値を除く)

指標名 (単位)	指標の説明	基準値	現状値	2026年度 目標値
生涯学習サポ ーター登録者数 (人)	市民自らが講師となり市民に教え るサポーター活動をしている人数 です。増加を目指します。	80人 (2011年度)	75人 (2017年度)	100人 以上

「府中市生涯学習サポーター登録者一覧」より

(4) 施策の方向性

重点施策 生涯学習と地域還元をつなげる事業の実施

「学び返し」の理念を市民に普及させるとともに、実際の「学び返し」の活動を市内で大きく広げていくため、学習だけではなく、地域に「返す」活動のあり方やそのためのノウハウなども含めて伝えていく事業を実施します。また、この際には、市内外の各種団体などとの連携についても積極的に検討します。

「学び返し」を広く普及させていくためには、市民の多くが「学び返し」という言葉に触れ、また、一部体験ができるような目玉事業を、市全体で実施していくことが有効と考えられます。市内の団体などとの連携を含め、目玉となりうる事業を検討します。

事業の取組

取組1 学習（学ぶ）と還元（返す）をセットとした事業

- 公的施設や多様なイベント、地域に還元する活動とセットとなった生涯学習事業
- 生涯学習活動を行っている方の「返す」活動を推進する制度づくり（ファシリテーター、サポーター、自主グループの活用 等）

取組2 市民が学習の成果を地域に還元する契機となる事業

- 生涯学習フェスティバルなどの全市的イベント及び生涯学習系イベントでの市民や市民団体との連携
- 東京2020大会、ラグビーワールドカップ2019の関連事業との連携

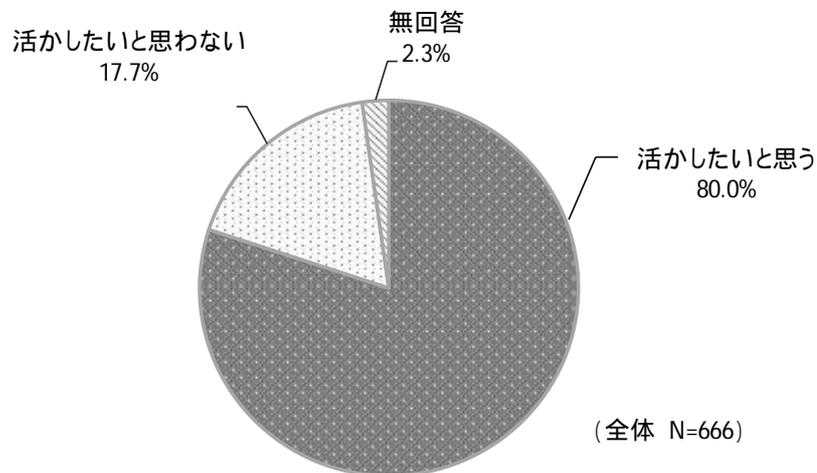
施策1 生涯学習を地域づくりにつなげる人材の育成や登用

「学び返し」は、市民における認知度や実施率自体は低い水準にとどまっています。一方、市民アンケートでは「生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験」を自分以外のために活かしたいという回答の比率が80.0%と非常に高くなっており、具体的な機会があれば、多くの市民が、生涯学習活動の成果を地域に還元する活動に参加する可能性は非常に高いものになると考えられます。

このような活動の普及については、第2次府中市生涯学習推進計画より、従前のリーダーバンクを発展させた生涯学習サポーター登録制度を開始するとともに、生涯学習ファシリテーターの育成を実施しています。こうした人材の育成を今後とも継続するとともに、より間口を広げ、多くの人が「学び返し」を始められるよう、「他の人の生涯学習活動を支援するためのノウハウやスキル(教え方など)」、「地域に還元していく活動を行っていくためのノウハウやスキル(教え方など)」など、学ぶだけでなく、「返す」ことも併せて身につけられる講座などを企画していきます。

また、この際には、生涯学習センターだけでなく、他の施設との連携や、市内のNPO等の市民団体などとの協働を推し進めていくこととします。

生涯学習の成果を「自分以外のために」活かしたいと思う比率



主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
地域の生涯学習の担い手(生涯学習ファシリテーター)の養成	地域における生涯学習活動の事業企画・運営、また、情報提供や相談に応じるなど、市民の学習活動に対し、直接的あるいは間接的に支援を行う地域の担い手(ファシリテーター)を養成する。	生涯学習ファシリテーター養成講座をレベルごとに分けて実施する。修了者には地域での活動を促すことで、「学び返し」を実践できるよう支援する。
生涯学習サポーター養成講座	資格や技能を持ち、生涯学習サポーターに登録している市民及び登録を検討している市民を対象に、より優れた講師を育成するため養成講座を実施する。	生涯学習サポーターの指導力向上を図り、より円滑な「学び返し」を実現する。年間終了者数20人を目標とする。
生涯学習ボランティアの養成講座	「学び返し」、「地域の担い手(ファシリテーター)」養成の一環として、ボランティア養成講座を開催する。	生涯学習ボランティア養成講座、ファシリテーター養成講座、生涯学習サポーター養成講座を開催し、ボランティアの養成に努める。各講座とも年1回以上の開催を目標とする。
市民企画講座	「学び返し」を推進するため、講座の企画を提案・実施する市民、または市民の団体を募集し、生涯学習センターで開催する。	知識・経験・企画意欲のある市民または市民団体の企画を積極的に採用し、講座の充実を図り、また「学び返し」の実践の場として提供する。年間講座数10講座を目標とする。
府中囃子伝承普及活動	市の伝統芸能の府中囃子を永く後世に残すため、備品の貸与や援助などの支援をする。	府中囃子の伝承普及を府中囃子保存会へ委託を継続していき、平成29年度に府中囃子(2流派)を収録し、作成したCDを活用するなど、市内外へ広く普及に努めていく。
武蔵国府太鼓市民講習会	市の新しい郷土芸能の武蔵国府太鼓普及のため、市民講習会を実施する。	武蔵国府太鼓講習会を武蔵国府太鼓連盟へ委託を継続していき、平成30年度に武蔵国府太鼓連盟の演奏を収録し、作成したDVDを活用することで伝承と市内外へ広く普及に努めていく。
ジュニアリーダー講習会	小学4年生から高校生までもを対象に野外活動を通して、地域のリーダー養成を図るため、キャンプ訓練や宿泊講習会などを実施する。	青少年が自然体験や社会体験を重ねるなかで、異年齢層との交流を通じ、他者への思いやりや逞しさを身に付けるとともに、地域で活躍するリーダーを養成する。
コムスポ協力者の育成	これまであまりスポーツになじみのなかった市民に、スポーツの楽しさを伝え、継続的な活動ができるように指導できる人材(コムスポ協力者)を育成する。	コムスポ協力者の資質向上のため、研修会を実施する。 府中コムスポ協力者研修会 1回
お話ボランティア養成講座	図書館や地域で絵本の読み聞かせを行うボランティアの資質向上を図る。	市民対象の「読み聞かせ講習会」を毎年実施し、絵本の読み聞かせやストーリーテリングなどを行える人材を育成する。また、図書館のおはなしボランティアを対象にした「ステップアップ講座」も継続して実施し、ボランティアの人材育成と能力向上につなげる。
美術館ボランティアの育成	NPOと美術館との協働により、研修会や教育普及事業など様々な事業活動の機会を提供し、美術館ボランティアを育成する。	研修会やワークショップなど、様々な教育普及事業活動の機会を提供し、美術館ボランティアを育成する。

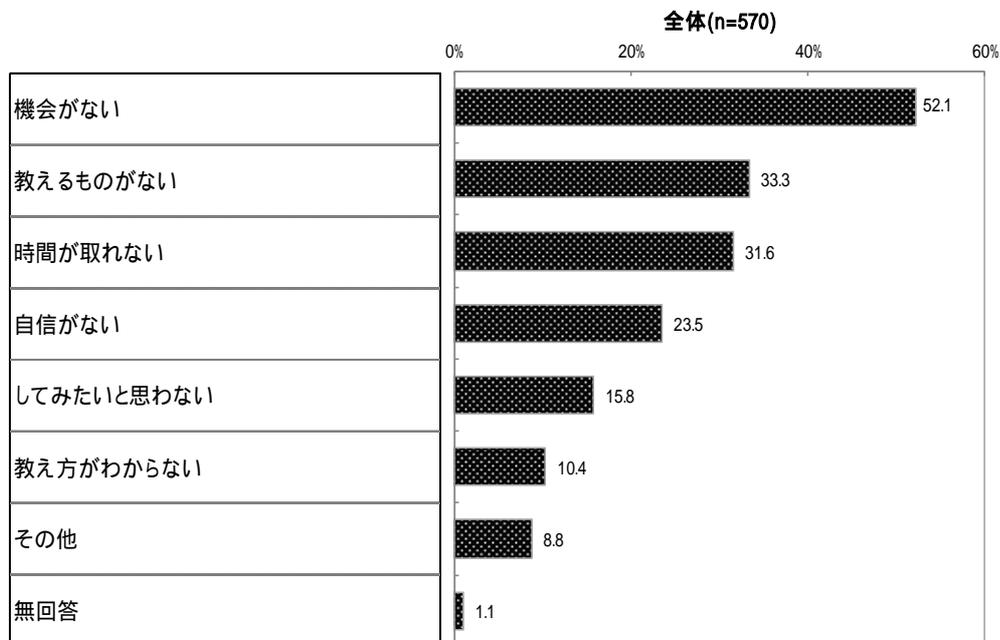
「府中コムスポ」とは、府中市民の健康維持増進及び地域コミュニティの活性化を目的としたスポーツ・レクリエーション活動を指す。
「協力者」とは、府中コムスポに協力し、生涯スポーツの普及に努めることができる者を指す。

施策2 市民が活躍する場の拡大

「学び返し」の活動が広まっていくためには、そのための学習の機会だけではなく、学習活動で身につけたものを発揮できる活躍の場も、併せて、拡大していくことが求められます。例えば、2016年度に68人まで登録が拡大した生涯学習サポーター登録制度ですが、登録はしたものの、実際に活躍する場が少ないという声があります。また、生涯学習ファシリテーターについても、質の高い人材教育は行われてきたものの、その後の実践の場までは用意されていません。市民アンケートでも、「学び返し」をしたことがない理由として、「機会がない」という回答が52.1%と、「教えるものがない」という回答の33.3%を大きく上回っています。さらに、「生涯学習」で身につけた知識・技能や経験を、自分以外のために活かすには、「知識・技能や経験を活かす人と活動の場を結ぶ人の充実」が必要だという回答が51.0%と半数を超えています。

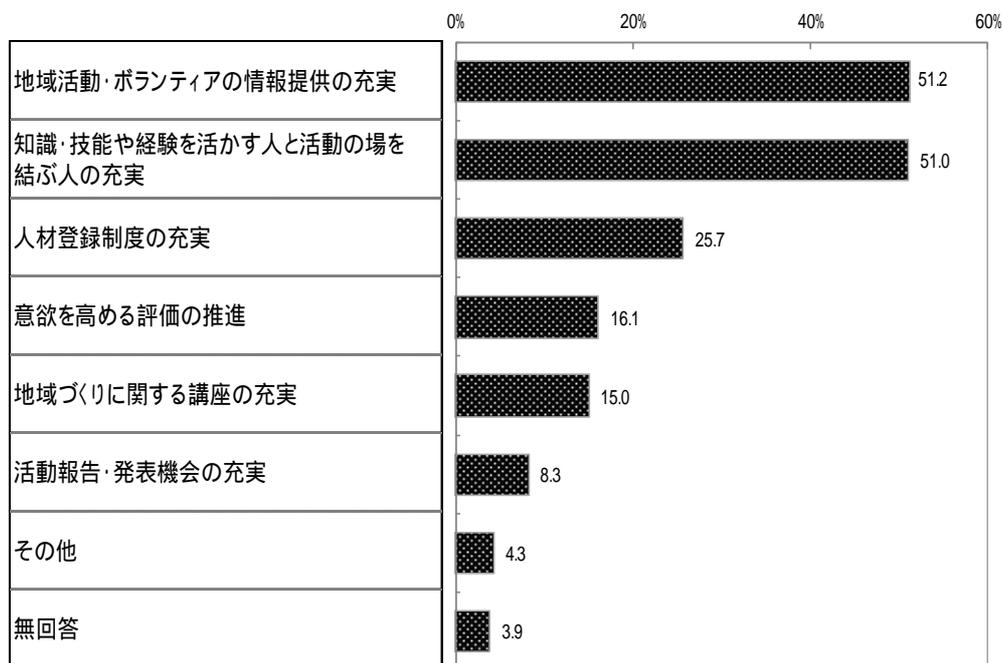
こうしたことを踏まえ、生涯学習活動を行ってきた市民が、そこで身につけた能力を発揮できる活躍の場の拡大を積極的に図っていくこととします。このためには、生涯学習センターなどの生涯学習系施設だけでなく、他の分野の公的施設や機関との連携、市内団体など、実際に地域に還元する活動を行っている団体や場との連携が極めて重要となります。加えて、市内の市民協働活動の活性化を担っている市民活動センター「プラッツ」との密接な連携も必要です。施策の実施にあたっては、こうした連携や協働を大きく進めていくこととします。

「学び返し」をしたことがない理由



生涯学習活動の成果を自分以外のために活かすために必要なこと

全体(n=533)



主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習ボランティアの活用事業	講座の企画運営、講師など生涯学習ボランティアとして活用する。	指定管理者と生涯学習ボランティアの協働により、「学び返し」と市民協働を目指し、年間 20 講座程度の開催を目標とする。
生涯学習フェスティバル	市民の生涯学習に対する理解を深め、生涯学習活動全体の推進を図る。今後、自主的な活動を推進するため、市民による実行委員会での開催を図る。	市、実行委員、指定管理者の三者共催の協働事業として実施。来場者数 12,000 人を目標とする。
市民活動団体の活動支援	市民活動センターに登録されている団体の活動機会の提供に努めるとともに、地域との交流を図る。	多様なフェーズの市民・団体が交流できる場を提供し、市民同士のネットワーク構築を目指す。各種イベント等で団体が活動する機会を提供し、団体活動の活性化を目指す。
学校支援ボランティア	世代を超えたふれあい活動の実施、地域の伝統的な文化や技能の伝承、校庭の整備・花壇の世話など、学校の環境整備への協力など、地域社会が学校に対して支援していくボランティア活動を広げていく。	事業の継続。
市民スポーツ教室	スポーツ推進委員が中心となり、スポーツ実施率の向上を目的に市民を対象としたスポーツ教室を実施する。	市民スポーツ教室を開催する（5 事業）。

(1) 現状と課題

府中市は、近隣市の中でも、生涯学習に関わる施設整備が進んだ地域となっており、これが府中市の活発な生涯学習活動を支えてきました。しかし、先行して施設整備が進んだ結果、次第に老朽化対応などが必要となってきました。今後は、第2次府中市公共マネジメント推進プランを踏まえつつ、対応方針を定めていく必要があります。

一方、運用面では、大きく3つの課題が指摘されています。1つ目は、生涯学習の広報の課題です。既に紹介した市民アンケートの結果でも、生涯学習事業の広報をもっと強化してほしいという声が非常に多くなっており、ここへの対応が必要です。新しく住民になった方や、若年層、就労者層などでは、市の情報がなかなか入ってこないという意見もあります。

現在、各事業の広報は、施設それぞれのチラシやホームページなどによるものが中心となっており、全体的な広報は、「広報ふちゅう」での一部掲載や、市のホームページでの開催情報の一覧告知に限定されています。今後は、市の生涯学習活動全体の魅力を効果的に伝え、市民一人ひとりを生涯学習活動に巻き込んでいく積極的な広報の実施が求められます。

2つ目は、生涯学習関連の各施設・事業間の連携が希薄であることです。現状では、それぞれの施設毎に他施設や団体などとの連携や協働を進めることが基本となっており、全体としての連携・協働を図る状況にはなっていません。今後、市民・地域との協働や連携をこれまで以上に拡大し、生涯学習の活性化を図っていくためには、関連施設・関連事業の連携を効果的に強化していくことが求められます。

最後に、高齢者の方や乳幼児連れの方など、施設利用や生涯学習活動への参加にハードルのある方への対応という課題があります。市民誰もが生涯学習活動を楽しんで頂くためには、施設の利用しやすい環境づくり、あるいは対応したサービスの拡充など、利便性や使いやすさの向上を検討していく必要があります。

(2) めざす姿

市民誰もが、安心して利用できる生涯学習活動の実施環境が整っている
生涯学習の魅力を伝える広報が効果的に実施され、市民の多くが生涯学習活動に関心を持ち、また参加に必要な情報を取得できている

(3) 施策目標

生涯学習を支える施設やその運営の代表例として、市の生涯学習の中核施設である生涯学習センターの利用者満足度を90.0%以上に維持することを目標とします。また、より多くの市民が必要な時に、必要な情報を取得できるよう広報を充実させ、市の生涯学習に関する情報を市からの情報発信により取得できている市民の割合を90.0%以上にすることを目標とします。

指標名 (単位)	指標の説明	基準値	現状値	2026年度 目標値
生涯学習センターの利用者満足度(%)	生涯学習活動の拠点である府中市生涯学習センターの利用者の満足度です。90.0%以上の維持を目指します。	-	91.0% (2017年度)	90.0%以上

「府中市生涯学習センター 利用者アンケート」より

指標名 (単位)	指標の説明	基準値	現状値	2026年度 目標値
市の生涯学習に関する情報を市からの情報発信により取得できている市民の割合(%)	市の生涯学習に関する情報を市からの情報発信により取得している市民の割合です。90.0%以上を目指します。	-	79.1% (2017年度)	90.0%以上

平成29年度「府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査」より

(4) 施策の方向性

重点施策 生涯学習の広報の強化

先にも述べたように、市民アンケートにおいて市の生涯学習施策について最も意見が多かったのは「広報」についてです。これを踏まえ、生涯学習の基盤を支える分野での重点事業としては、広報の強化を検討します。

広報にあたって、市民アンケート等では、ホームページやSNSなどのデジタルでの広報の強化とともに、紙や街を利用したアナログでの広報の拡大を求める声が大きく上がって来ています。これを踏まえて、ポスターやチラシなどの紙とデジタル双方での広報の強化を目指します。

事業の取組

取組1 アナログ媒体を使った広報の事業

- 駅周辺施設、商業施設などでのチラシ配布やポスター掲示
- 東京2020大会、ラグビーワールドカップ2019関連事業の場を使った広報活動

取組2 デジタル媒体を使った広報の事業

- ホームページでの広報の強化（学習グループや市民団体の「学び返し」活動の紹介、学習活動（学ぶ）と地域に還元する活動（返す）をマッチングさせるページの作成など）
- ローカルテレビ等との連携活動の強化

施策1 施設と事業との連携

先に述べたように、現状、生涯学習事業の広報は、それぞれの施設や事業で行っているものが主体となっており、市民が多種多様に行われている各活動を、どのような内容でどんな面白さがあるかも含めて調べ、選択することが難しくなっています。市民アンケートの結果をみると、「生涯学習をしていない理由」として、「必要な情報の入手が難しい」という回答が28.9%¹、市の生涯施設を利用する上での問題点として「利用に関する情報が少ない」が21.7%と多く、市の生涯学習の普及において、こうした全体広報の不足が大きな問題となっている可能性が高いと考えられます。

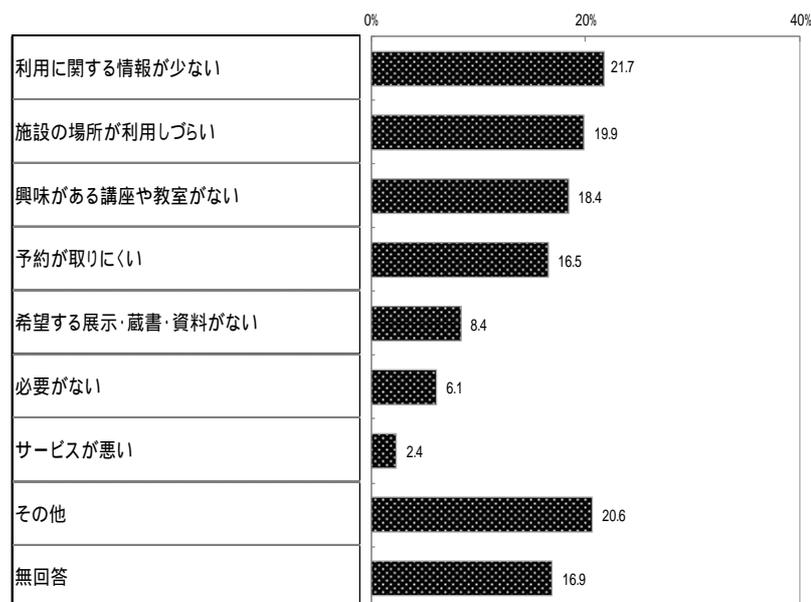
また、「講座や教室などが、自分の希望する内容や実施時期・時間に合わない」(18.8%)、「身近なところに施設や場所がない」(13.3%)という回答も、「生涯学習をしていない理由」としては多くなっていますが¹、こうした課題については、各生涯学習施設間、あるいは市の生涯学習系施設と、市民団体などとの連携を図り、講座内容の調整を図ることによって、大きく解決していく可能性が高いと考えられます。

同様の傾向は、また、「生涯学習を行う施設等を利用する上での問題点」についての回答でもみられ、「利用に関する情報が少ない」が21.7%とトップとなっている他、「施設の場所が利用しづらい」、「興味がある講座や施設がない」といった回答が多くなっています。

これを踏まえ、生涯学習全体の広報や、地域全体での学習事業についての連携・協働の拡大など、生涯学習事業全体を横串で支えていく施策を展開していきます。

施設等を利用する上での問題点

全体(n=538)



1 26ページのグラフ「生涯学習をしていない理由」参照

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習情報誌の発行	生涯学習ボランティアの編集で、市民の学習活動状況や生涯学習センターでのイベントを取り上げ「生涯楽習だより」を発行する。	生涯学習ボランティア編集による「生涯楽習だより」の発行に生涯学習センターが協力する。年4回の発行を目指す。
大学との連携	東京農工大学、東京外国語大学、明治大学と連携し、教養セミナーなどを実施して、学習機会の場を提供する。	生涯学習センターと各大学との連携講座として実施する。各大学と年1回以上の連携講座の実施を目標とする。
広報媒体を活用した生涯学習のPR	各主管課の依頼に基づいて生涯学習関連事業を「広報ふちゅう」などを通じて、市民に知らせる。	各主管課の依頼に基づいて「広報ふちゅう」などに生涯学習関連事業の内容を掲載する。
外国語版情報誌の発行	在住外国人向けに催し案内や生活上の情報を盛り込んだ冊子（英文併記）を発行する。	定期的な発行を継続し、在住外国人への効果的な情報発信を目指す。

施策2 生涯学習の推進機能の充実

市内の生涯学習事業全体を通じた施策調整や広報などを積極的に展開していくに当たっては、庁内関連部署の連携を実施するとともに、NPO団体や市民団体などとの連携を推進していく必要があります。これを実現するため、庁内・庁外の連携を、PDCAサイクルを踏まえ、逐次改善していきます。

こうした調整・連携については、第2次府中市生涯学習推進計画以降育成してきた生涯学習ファシリテーターの活用も検討されます。

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習サポート事業の新設	生涯学習に関するさまざまな情報の提供、相談、紹介、支援・調整に関する体制を整備する。	生涯学習ファシリテーターの活用を図った体制の整備を目指す。
市内生涯学習施設間交流会議	市内の生涯学習関連施設との連絡を図り、企画予定や相互協力そして市民ニーズの動向など情報交換をする。	8館連絡会議を持ち回りで開催し、情報交換等を行う。

施策3 安心・安全に利用できる施設的环境づくり

先に述べたように、市民アンケートでは、高齢者や乳幼児連れの方などから利用しやすい環境づくりを求める声がありました。また、生涯学習センターも老朽化対策を考える時期が迫りつつあります。

こうした状況および第2次府中市公共施設マネジメント推進プランを踏まえ、安心・安全に利用できる施設的环境づくりを、サービス面の改善も含め、積極的に行っていきます。

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習センターの開放	学習を目的に託児を必要とする団体（サークル）に託児室を無料で提供する。	生涯学習センター内施設を利用する際に、託児を必要とする団体が託児室を併用利用する場合、託児室を無料で提供する。年間35件の利用を目標とする。
YAルームの活用	中央図書館に設置した中高生向けのYAルームで、自主的な活動を推進する。	高校・大学の学校案内や中高生向けの新聞を継続して提供する。また、職場体験の中学生が作成した作品や中高生自身が書いた本の紹介の掲示なども行い、YAルームをより活用してもらえよう努める。 地区図書館全館にYAコーナーを設置し、活用してもらえよう努める。
児童館の整備	乳幼児をかかえた保護者が利用しやすいように、キッズスペースを設置し、一層の活用を図る。	児童館の利用活性化を図るため、比較的午前中の利用が多い未就学児の利便性を考えるとともに、多くの小学生参加が見込まれるサークルの活動については、子供たちのニーズに合った企画・実施を心がけていく。
放課後子ども教室	子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進するため、放課後などに小学校施設を活用した、遊びの場・学びの場を提供する。	市内22校で実施する。

第5章 計画の実現に向けて

1. 計画の推進体制

全体の推進体制

府中市では、平成15年3月に、市民の生涯学習の振興を図るための審議・建議の機関として府中市生涯学習審議会を条例により設置しています。今回の計画においても、主管課である文化生涯学習課を中核の推進組織としつつ、その進行状況および評価について、定期的に府中市生涯学習審議会において審議を実施するとともに、必要に応じて、その建議を受けていくものとします。

市民との協働による推進

府中市は平成26年10月に、市民と市が一体となって市民協働を推進していくことを広く表明するため、「市民協働都市」とすることを宣言しました。平成26年度を初年度とする第6次府中市総合計画 前期基本計画及び後期基本計画では「協働」をテーマに策定し、目指す都市像「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」の実現に向けて、「市民協働」を積極的に推進しています。

生涯学習の推進にあたっては、市民の学習意思を尊重するとともに、施策の推進・評価や施設運営・事業企画への参加など、市民の力、地域の力は必要不可欠です。市民、地域、団体、学校、企業など、生涯学習に関わる全ての人々と市が連携を深めながら、積極的に取り組むことが大変重要になります。各主体がそれぞれの垣根を超えて主体的に連携・協力し、生涯学習の推進に取り組めるような環境づくりを進めます。

市内部のマネジメントによる推進

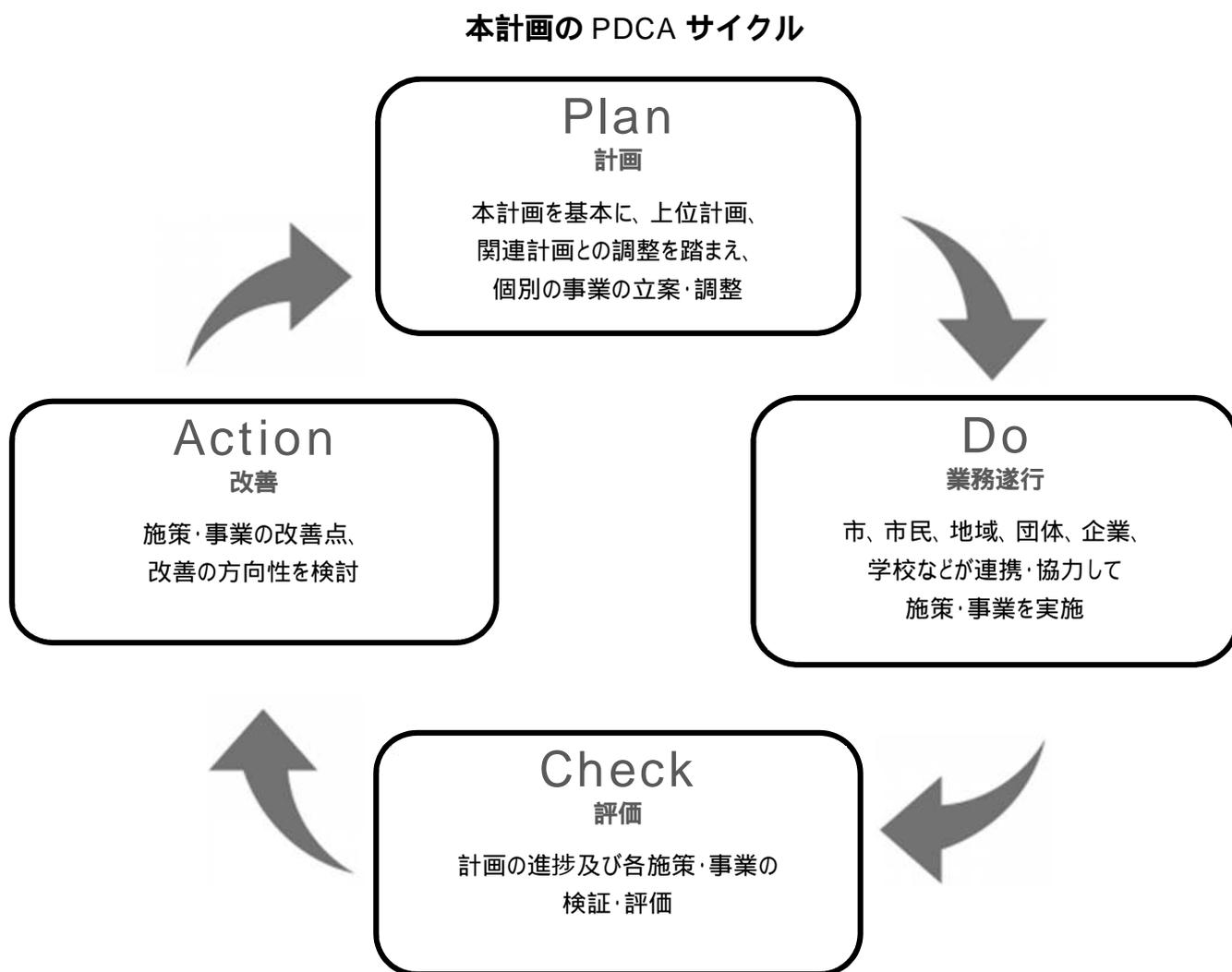
本計画には、文化生涯学習課だけでなく、様々な関係部門が担当する施設や事業も含まれています。計画を確実に推進していくためには、庁内の枠組みを超えた相互連携を図りながら取り組んでいくことが重要になります。

市としての体系的な学習機会の提供や事業の実施など、庁内担当課との連携・協力を進め、また各課が所管する施設間の連携を高めることで、効果的に事業を進めることができるよう庁内推進体制を整備していきます。

2 . 計画の進行管理

本計画の施策・事業の進捗状況や成果を把握するためには、施策・事業の内容について定期的に確認・点検を行い、必要に応じて改善をしていくことが重要です。

本計画を具体的な事業計画に反映させる Plan (計画)、それを専門的な知見をもって実施していく Do (業務遂行)、遂行結果を確認する Check (評価)、評価を基に事業や計画を見直す Action (改善) のサイクルを確実に推進していきます。また、毎年各基本施策における事業の実施状況を調査し、進捗管理を行っていきます。



資料編

- 1 府中市生涯学習審議会委員名簿
- 2 府中市生涯学習審議会開催経過
- 3 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果

1 府中市生涯学習審議会委員（8期）名簿

（敬称略）

分野	氏名	所属
自主グループ	いわくぼ さなえ 岩久保 早苗	中央文化センター自主グループ連絡会副会長
スポーツ	おおたに ひさと 大谷 久知	NPO法人府中市体育協会専務理事
ボランティア	おくの ひでき 奥野 英城	悠学の会
学識経験者	きうち なおみ 木内 直美	NPO法人府中市民活動支援センタースタッフ
公募	きし さだお 岸 定雄	厚生労働省キャリアコンサルタント2級技能 検定委員
福祉	きたじま あきお 北島 章雄	府中市第4地区民生委員児童委員協議会副会長
学識経験者	さの ひろし 佐野 洋	東京外国語大学学長特別補佐（社会貢献等担 当）、大学院総合国際学研究院・教授
公募	せきぐち みれい 関口 美礼	府中まちコム舎メンバー
P T A	そうま いっぺい 相馬 一平	小柳小学校P T A会長
学識経験者	てらたに ひろみ 寺谷 弘壬	青山学院大学名誉教授、国際比較研究所所長、 デイリー・シー会長、ひめじ観光大使
教育	なかにし ゆうこ 中西 裕子 (平成30年3月31日まで)	若松小学校校長
教育	おしだり るりこ 忍足 留理子 (平成30年4月1日から)	第六小学校校長
文化	なかむら ようこ 中村 洋子	文化団体連絡協議会副会長
学識経験者	ながはた まこと 長畑 誠	明治大学教授、一般財団法人あいあいネット代 表理事
公募	にしはら たまし 西原 珠四	府中市国際交流サロン 副会長
ファシリテーター	みやけ あきら 三宅 昭	元NPO法人府中市民活動支援センター理事、 生涯学習ファシリテーター養成講座上級修了 者、悠学の会

2 府中市生涯学習審議会（8期）開催経過

回	開催日	審議内容
第1回	平成29年4月26日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱、委員紹介 ・正副会長選出 ・今後の会議の進め方について
第2回	平成29年6月29日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・答申の作成について
第3回	平成29年8月9日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・答申の作成について
第4回	平成29年10月26日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する市民アンケート(案)について
第5回	平成29年12月18日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査(案)の最終確認
第6回	平成30年3月23日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市の生涯学習の現状と課題について ～府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果の速報値報告～
第7回	平成30年4月25日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次府中市生涯学習推進計画案 検討の方向性について
第8回	平成29年6月28日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次府中市生涯学習推進計画案について
第9回	平成30年7月23日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次府中市生涯学習推進計画案について
第10回	平成30年8月22日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次府中市生涯学習推進計画案について
第11回	平成30年 月 日（ ）	

3 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果

(1) 調査概要

1. 調査の目的

平成 21 年度に策定した「第 2 次府中市生涯学習推進計画」が平成 30 年度で 10 年間の計画期間を終えるにあたり、今後の市民の皆さまの生涯学習の支援の更なる充実を目指した「第 3 次府中市生涯学習推進計画」の策定に向け、今後の施策を進めるうえでの基礎資料として、市民の皆さまの生涯学習の状況を把握し、市の施策に対するご意見を伺うため、アンケート調査を実施した。

2. 調査の対象

府中市に在住の満 18 歳以上の方の中から、2,000 人を無作為に抽出した。

3. 調査の期間

平成 30 年 1 月 17 日（水）～平成 30 年 2 月 16 日（金）

4. 調査の手法

郵送により配布し、郵送により回収。

5. 回収数・回収率

配布数	2,000 票
回収数	666 票
回収率	33.3%

6. 調査結果の見方

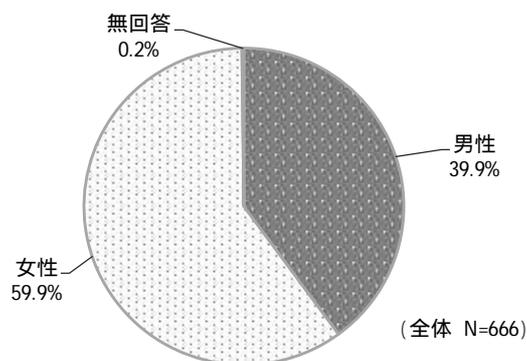
- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合は N、それ以外の場合には n と表記している。
- (2) %は小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも 100%にならない場合がある。
- (3) 回答者が 2 つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は 100%を超えることがある。

(2) 調査結果

回答者のプロフィール

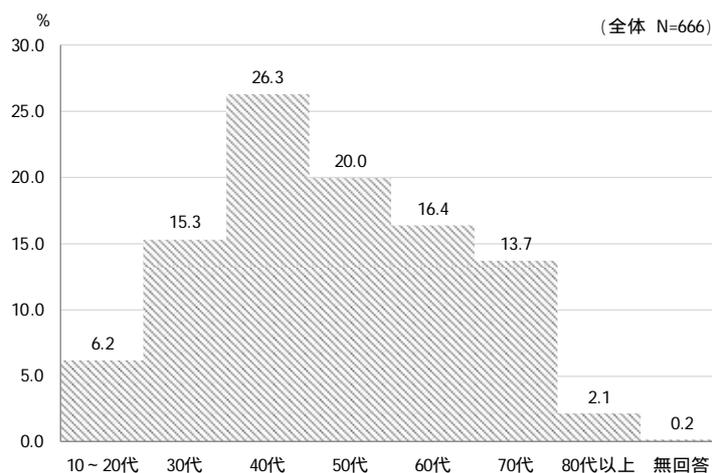
● 性別

「男性」39.9%、「女性」59.9%
となっており、女性比率が高い。



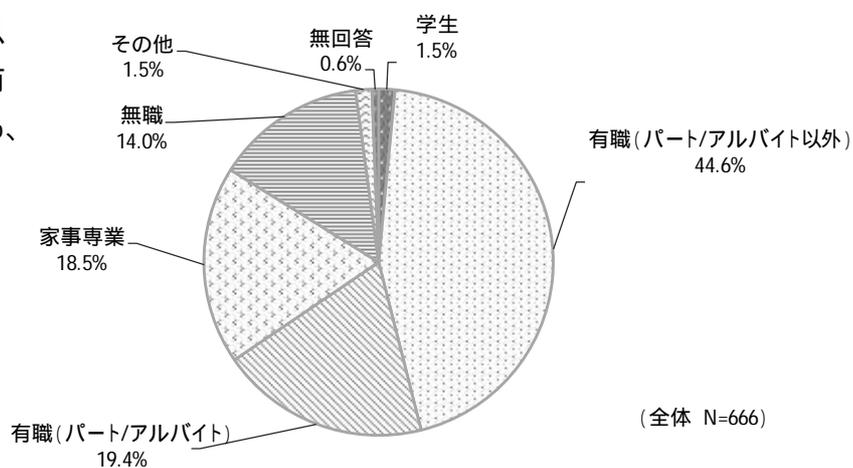
● 年齢

最も多いのは「40代」の26.3%
で、次に「50代」の20.0%となっ
ており、40代・50代で全体の56.3%
を占める。



● 職業

「有職(パート・アルバイト以外)」が44.6%で最も多く、次に「有職(パート・アルバイト)」の19.4%、「家事専業」の18.5%と続く。



●居住地

「日吉町」を除く全町から回答を得ている。最も多いのは「白糸台」の6.6%で、次に「四谷」の4.7%となる。

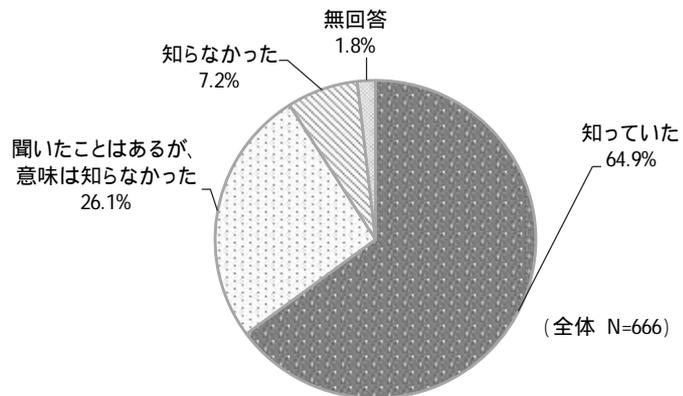
(全体 N=666)

朝日町	押立町	片町	北山町	寿町	小柳町	是政	幸町	栄町	清水が丘	白糸台	新町	住吉町
2.4	4.4	1.5	1.4	0.3	3.0	5.9	1.5	2.7	1.7	6.6	3.6	3.6
浅間町	多磨町	天神町	東芝町	西原町	西府町	日鋼町	日新町	八幡町	晴見町	日吉町	府中町	分梅町
3.2	0.6	2.7	0.9	1.2	2.1	0.3	0.6	1.8	3.2	0.0	2.9	2.6
本宿町	本町	緑町	南町	宮西町	宮町	美好町	武蔵台	紅葉丘	矢崎町	四谷	若松町	無回答
3.2	2.6	2.4	4.5	2.6	2.0	4.4	2.4	3.9	1.1	4.7	4.2	2.0

2. 生涯学習の現状について

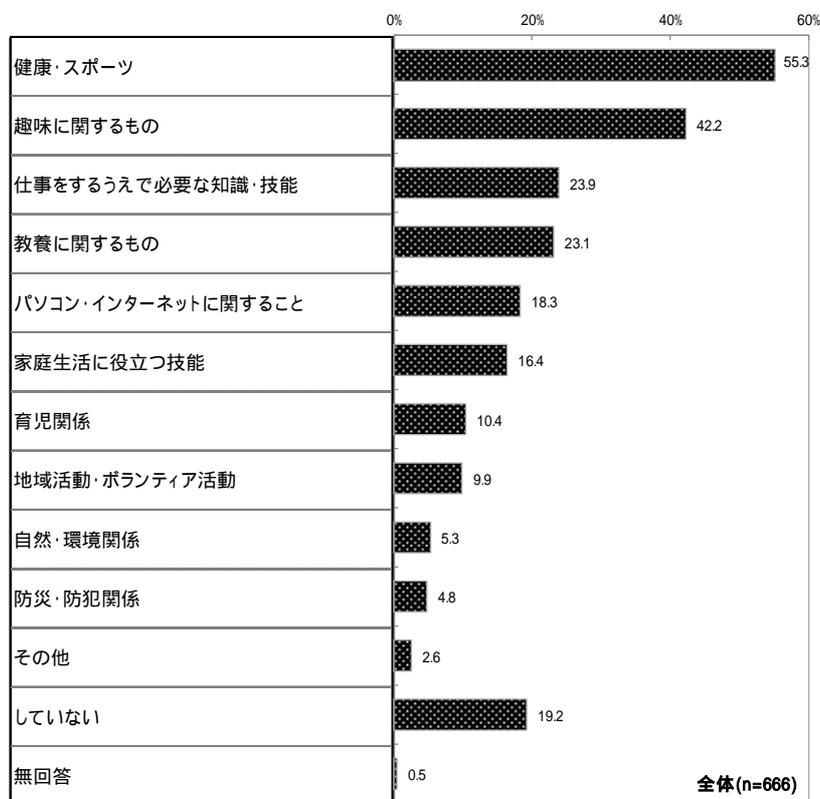
問1 「生涯学習」という言葉をご存知でしたか。(○は1つ)

「知っていた」64.9%、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」26.1%となっており、市民の過半が言葉の内容まで理解し、9割以上が言葉は聞いたことがあるという結果になった。

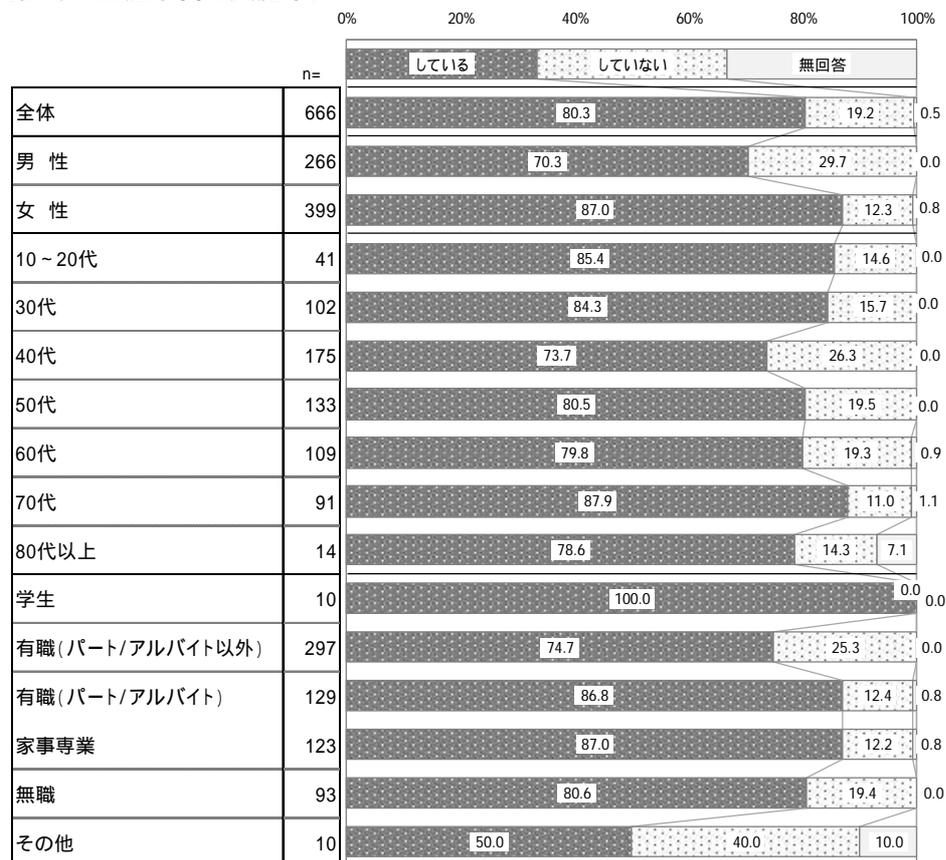


問2 どのような「生涯学習」をしたことがありますか。（○は3つ以内）

最も多いのは「健康・スポーツ」の55.3%で、次に「趣味に関するもの」42.2%、「仕事をするうえで必要な知識・技能」23.9%、「教養に関するもの」23.1%と続く。



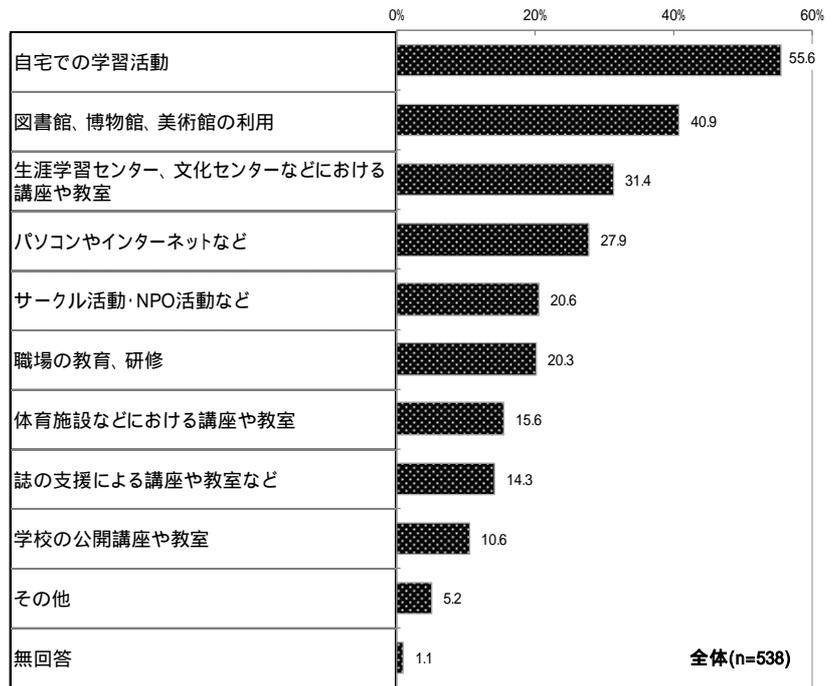
【参考：生涯学習の実施率】



問3

生涯学習をした人のみ どのような方法で「生涯学習」をしたことがありますか。
(○は3つ以内)

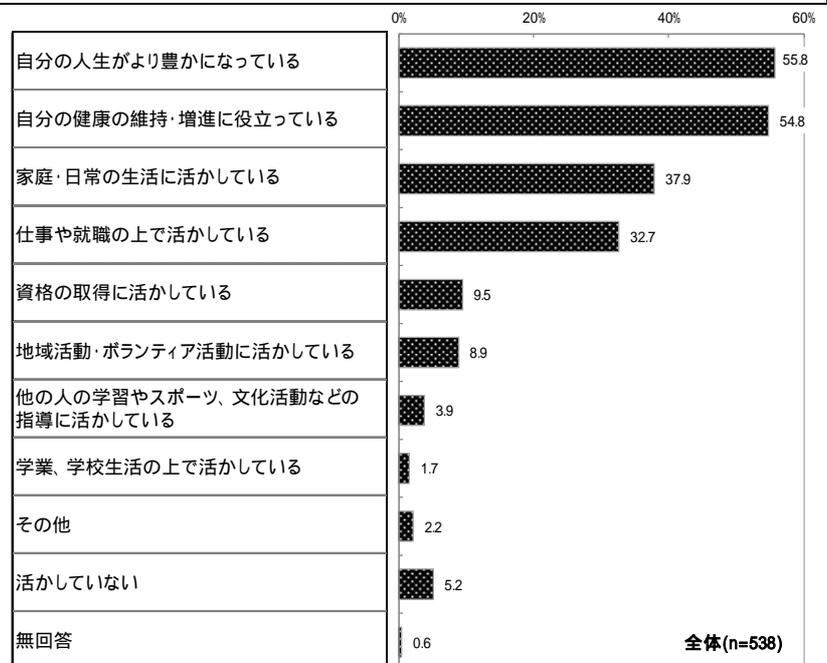
最も多いのは「自宅での学習活動」(55.6%)で、次に「図書館、博物館、美術館の利用」の40.9%、「生涯学習センター、文化センターなどにおける講座や教室」の31.4%となる。



問4

生涯学習をした人のみ 「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように活かしていますか。(○は3つ以内)

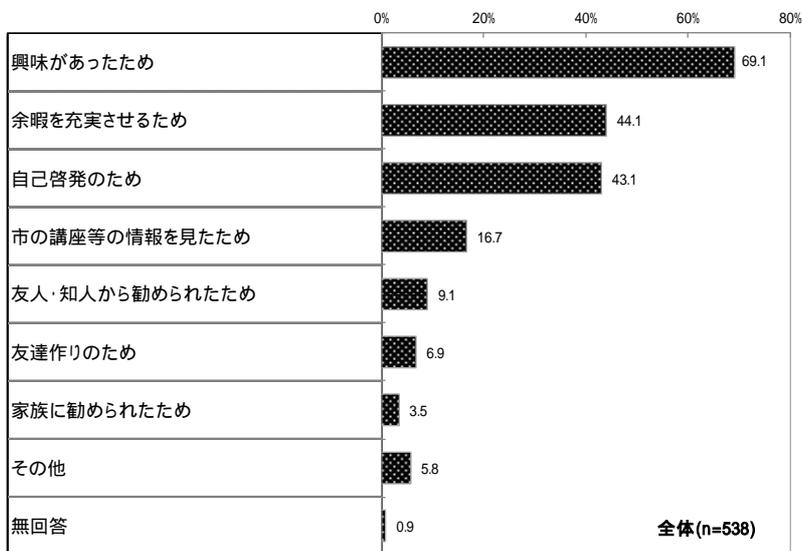
「自分の人生がより豊かになっている」(55.8%)、「自分の健康の維持・増進に役立っている」(54.8%)の2つの回答が多くなっている。次に「家庭・日常生活に活かしている」(37.9%)、「仕事や就職の上で活かしている」(32.7%)が続く。



問5

生涯学習をした人のみ 「生涯学習」を始めたきっかけは何ですか。(〇は3つ以内)

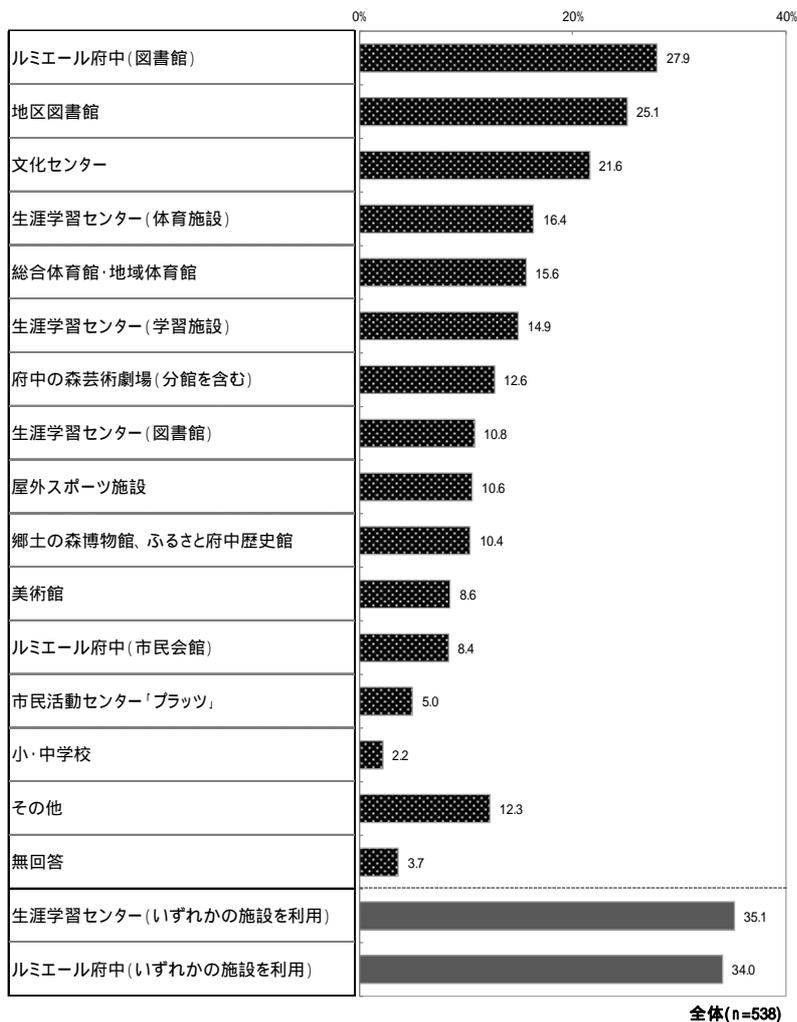
「興味があったため」が69.1%で最も多く、次に「余暇を充実させるため」(44.1%)、「自己啓発のため」(43.1%)となっている。



問6

生涯学習をした人のみ 「生涯学習」を行う中でよく利用する市の施設はどれですか。(〇は3つ以内)

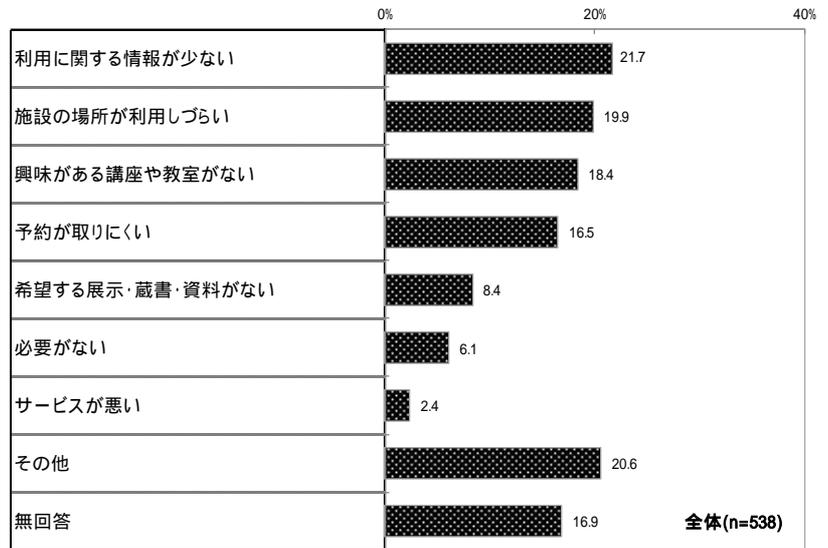
利用している施設で最も多いのは「ルミエール府中(図書館)」の27.9%で、次に「地区図書館」(25.1%)、「文化センター」(21.6%)となっている。



問7

生涯学習をした人のみ 問6の施設等を利用する上での問題点は何ですか。(〇は3つ以内)

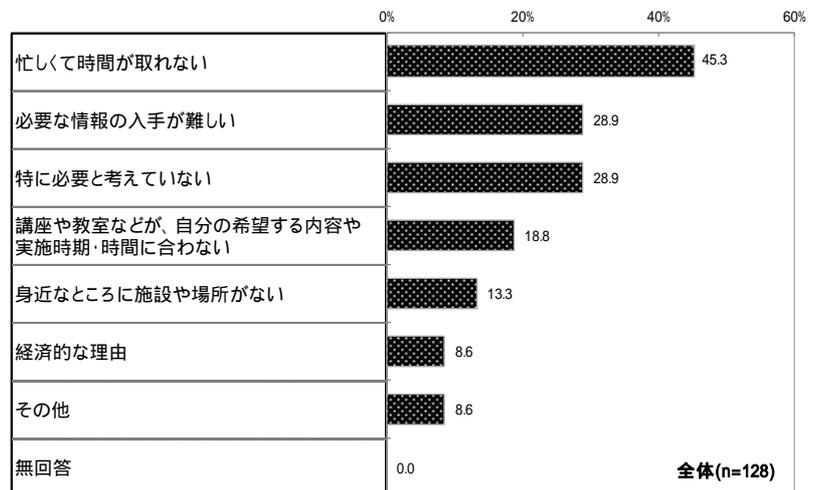
「利用に関する情報が少ない」が21.7%で最も多く、次に「施設の場所が利用しづらい」(19.9%)、「興味がある講座や教室がない」(18.4%)、「予約が取りにくい」(16.5%)と続く。



問8

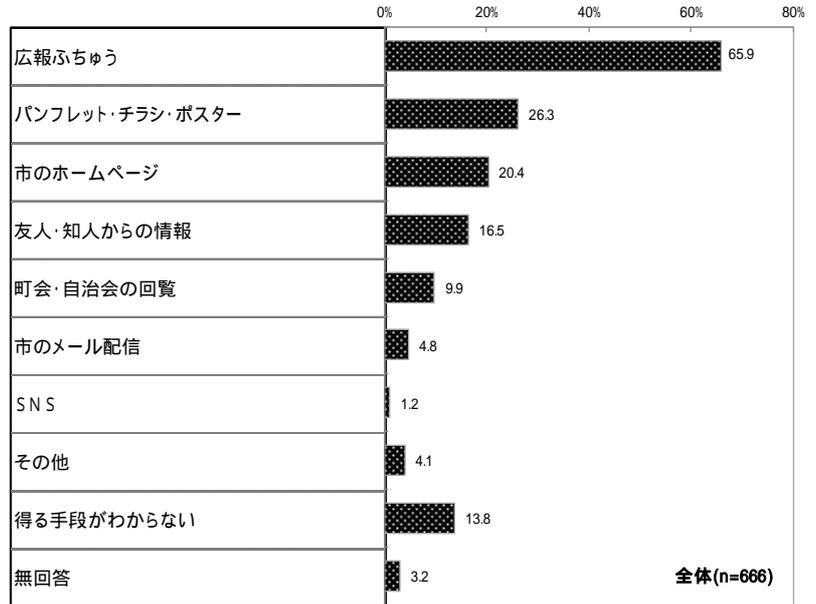
生涯学習をしていない人のみ 「生涯学習」をしていない理由は何ですか。(〇は3つ以内)

最も多いのは「忙しくて時間が取れない」の45.3%で、次に「必要な情報の入手が難しい」と「特に必要と考えていない」の28.9%が続く。



問9 市の「生涯学習」に関する情報を、どのように得ていますか。（○は3つ以内）。

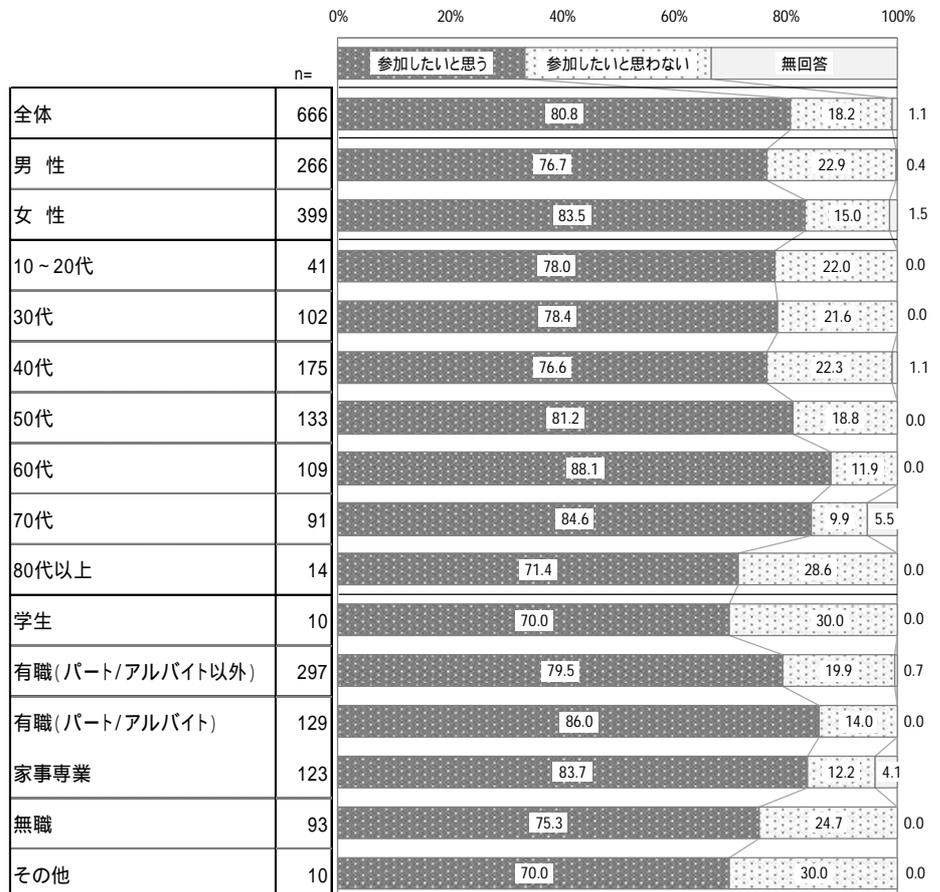
「広報ふちゅう」が65.9%で最も多く、かなり離れて「パンフレット・チラシ・ポスター」(26.3%)、「市のホームページ」(20.4%)となっている。



3 . 府中市の生涯学習の施策に対する今後の意向について

問10 今後、市の「生涯学習」事業に参加したいと思いますか。（○は1つ）

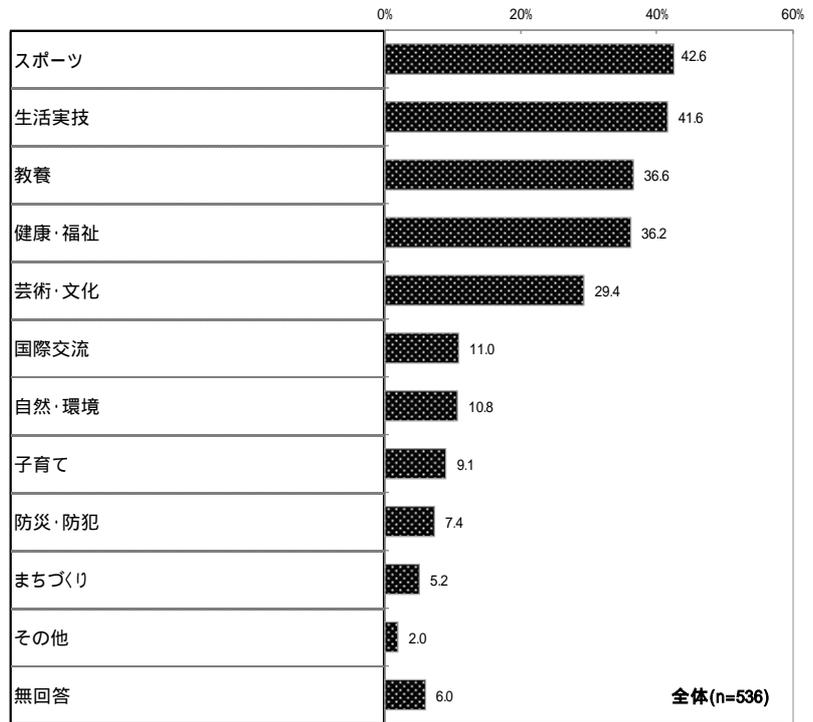
全体の80.8%が「参加したいと思う」と回答しており、「参加したいと思わない」という回答は18.2%にとどまる。



問 11

問 10 で「参加したいと思う」と回答した人のみ 今後、市の「生涯学習」事業でどのような分野を望みますか。（○は3つ以内）

最も多いのは「スポーツ」の42.6%で、次に「生活実技」（41.6%）、「教養」（36.6%）、「健康・福祉」（36.2%）、「芸術・文化」（29.4%）と続いている。

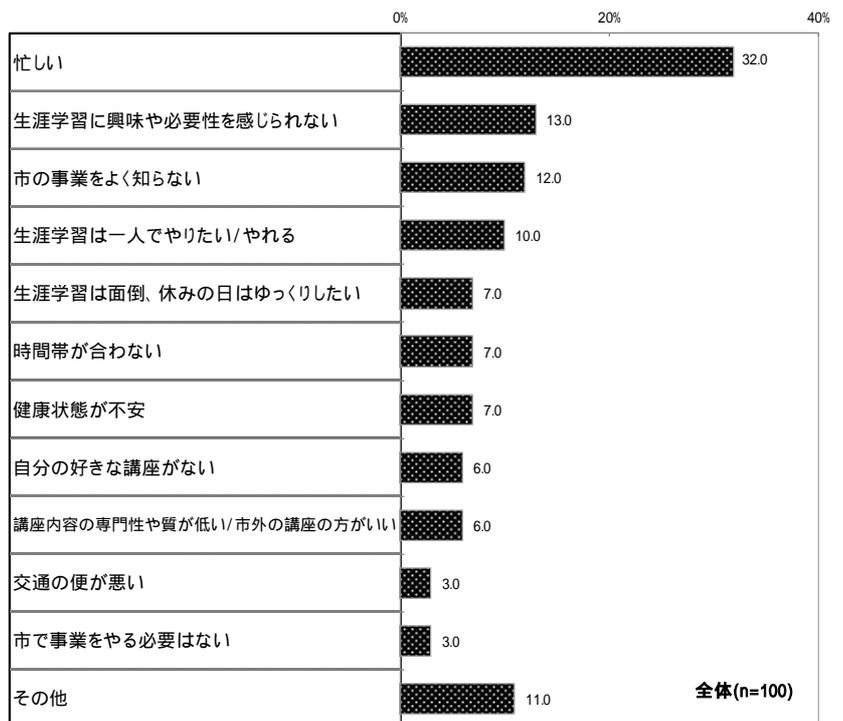


問 12

問 10 で「参加したいと思わない」と回答した人のみ 参加したいと思わない理由は何ですか。また、今後、どのような市の「生涯学習」事業であれば参加してみたいと思いますか。（自由記述）

最も多いのは「忙しい」の32.0%で、次はかなり離れて「生涯学習に興味や必要性を感じられない」（13.0%）となる。

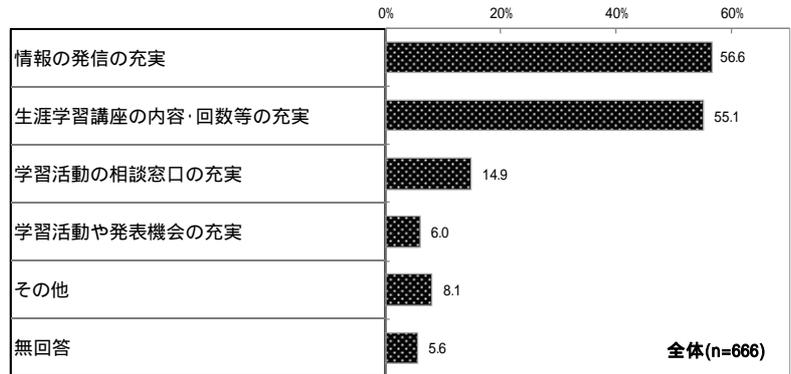
「市の事業をよく知らない」（12.0%）、「時間帯が合わない」（7.0%）、「自分の好きな講座がない」（6.0%）、「講座内容の専門性や質が低い」（6.0%）と回答している層については、広報の強化や事業形態の改善により、生涯学習事業への参加が促進できる可能性がある。



問 13

今後、市民の「生涯学習」活動をもっと盛んにしていくために、充実してほしいサービスはどんなことですか。（○は3つ以内）

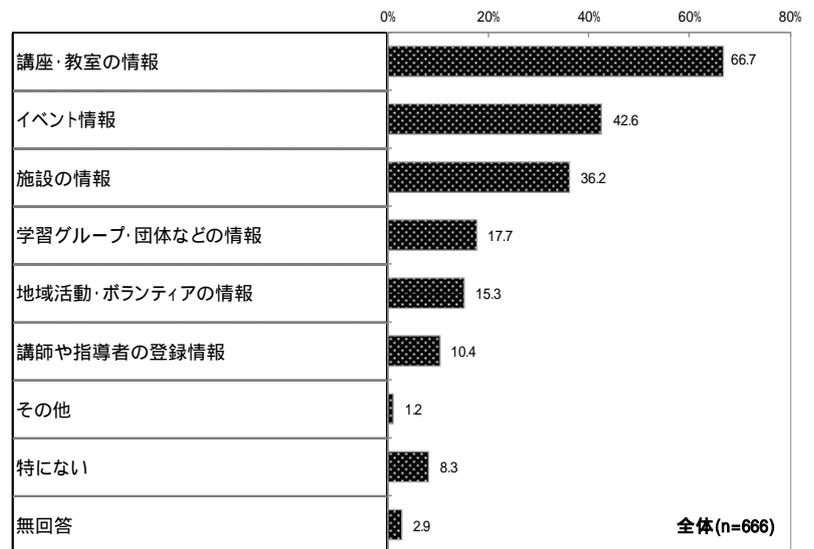
最も多いのは「情報の発信の充実」の56.6%で、次に「生涯学習講座の内容・回数等の充実」が僅かの差（55.1%）で続いている。



問 14

市の「生涯学習」に関する情報で望むものは何ですか。（○は3つ以内）

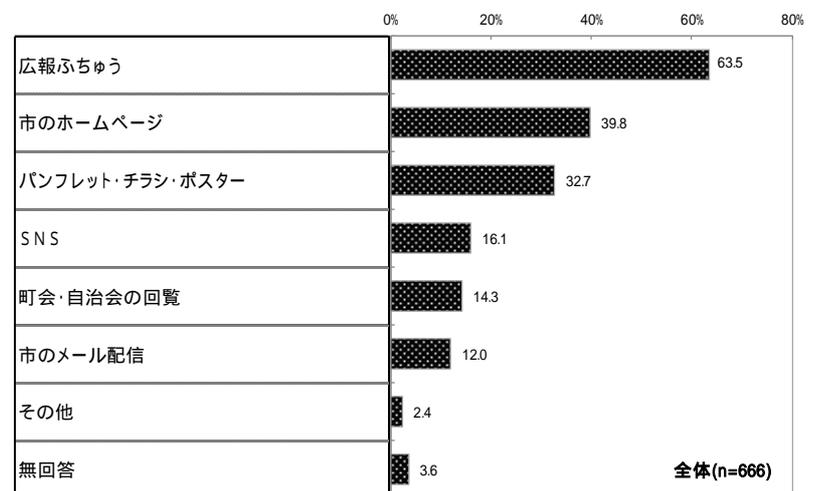
「講座・教室の情報」が66.7%と全体の3分の2を越え、次に「イベント情報」(42.6%)、「施設の情報」(36.2%)と続いている。



問 15

市の「生涯学習」に関する情報提供の手段で、力を入れるべきだと思うものは何ですか。（○は3つ以内）

「広報ふちゅう」が63.5%と最も多く、次に「市のホームページ」(39.8%)、「パンフレット・チラシ・ポスター」(32.7%)と続いている。

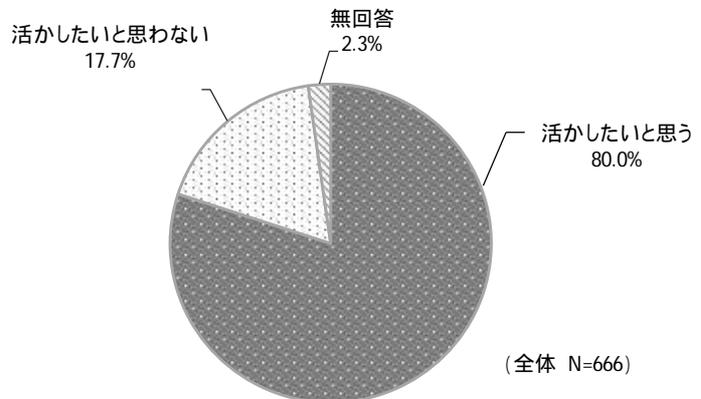


4. 生涯学習の成果について

問 16

「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験を、自分以外のために活かしたいと
 思いますか。(○は1つ)

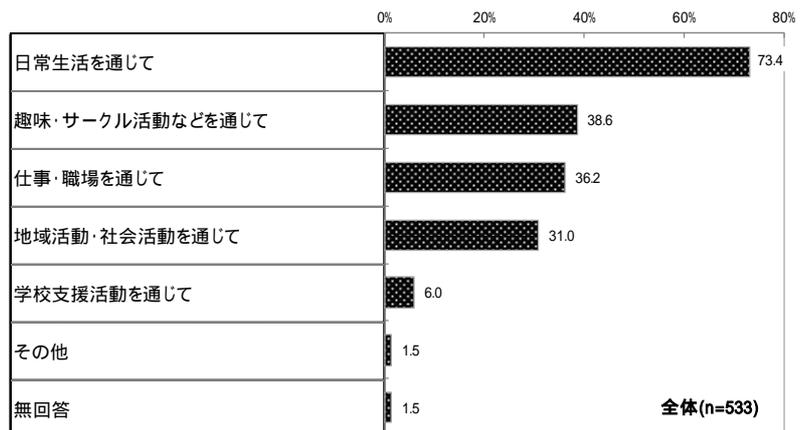
全体の80.0%が「自分以外のために活かしたい」と回答しており、「活かしたいと思わない」は17.7%にとどまっている。



問 17

問 16 で「活かしたいと思う」と回答した人のみ それをどのように活かしたいと
 思いますか。(○は3つ以内)

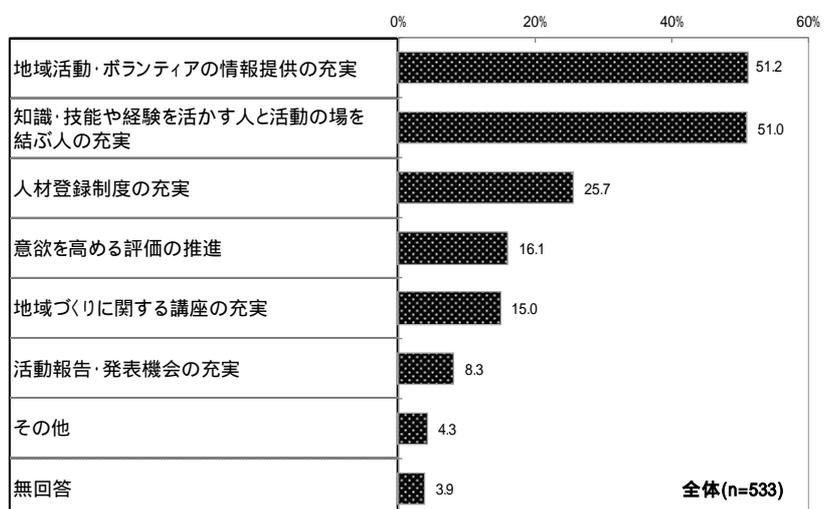
「日常生活を通じて」が73.4%と最も多く、次に「趣味・サークル活動などを通じて」の38.6%、「仕事・職場を通じて」の36.2%、「地域活動・社会活動を通じて」の31.0%と続いている。



問 18

問 16 で「活かしたいと思う」と回答した人のみ 「生涯学習」を通じて身につけた
 知識・技能や経験を、自分以外のために活かすには、どのようなことが必要だと思
 いますか。(○は3つ以内)

「地域活動・ボランティアの情報提供の充実」(51.2%)と「知識・技能や経験を活かす人と活動の場を結ぶ人の充実」(51.0%)の2つが、ほぼ同率で、1位・2位となっている。次はかなり離れて「人材登録制度の充実」(25.7%)となる。

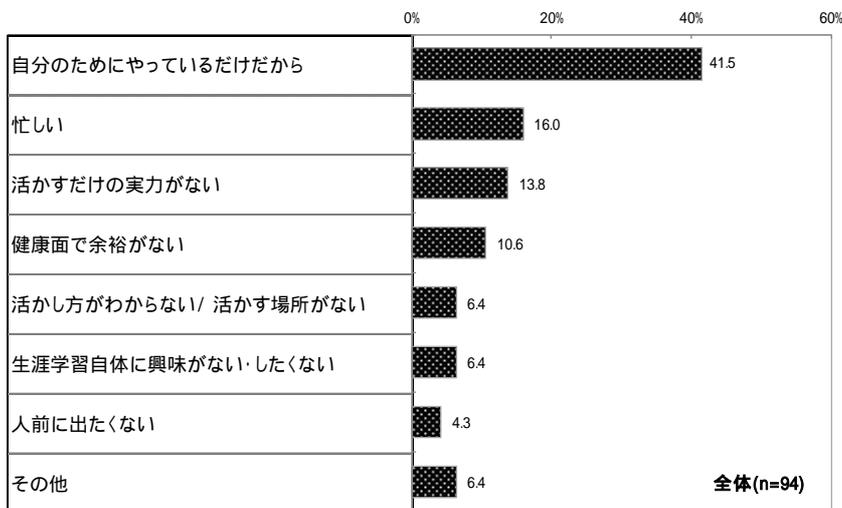


問 19

問 16 で「活かしたいと思わない」と回答した人のみ 活かしたいと思わない理由をお書きください。（自由記述）

最も多いのは「自分のためにやっているだけだから」で 41.5% となる。次に「忙しい」(16.0%)、「活かすだけの実力がない」(13.8%)、「健康面で余裕がない」(10.6%)と続く。

性別で見ると、「忙しい」は男性が、「活かすだけの実力がない」は女性の回答が多い。一方、高齢者では「健康面で余裕がない」という回答が多くなっている。

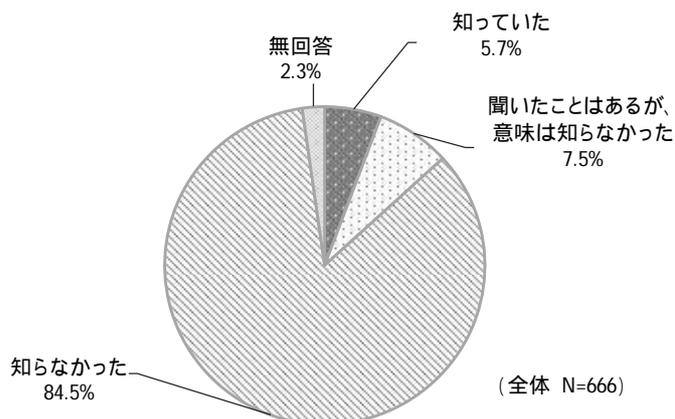


5 . 「学び返し」について

問 20

市が掲げている「学び返し」という言葉をご存知でしたか。（○は1つ）

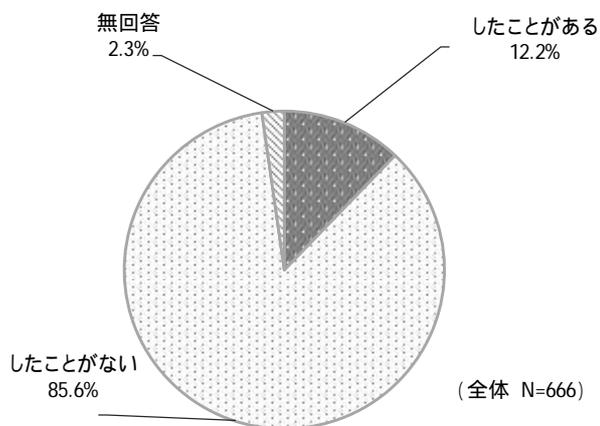
学び返しを「知っていた」のは 5.7%、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」は 7.5% となっており、併せて 13.2% に止まる。一方、「知らなかった」という回答は 84.5% である。



問 21

「学び返し」をしたことがありますか。（○は1つ）

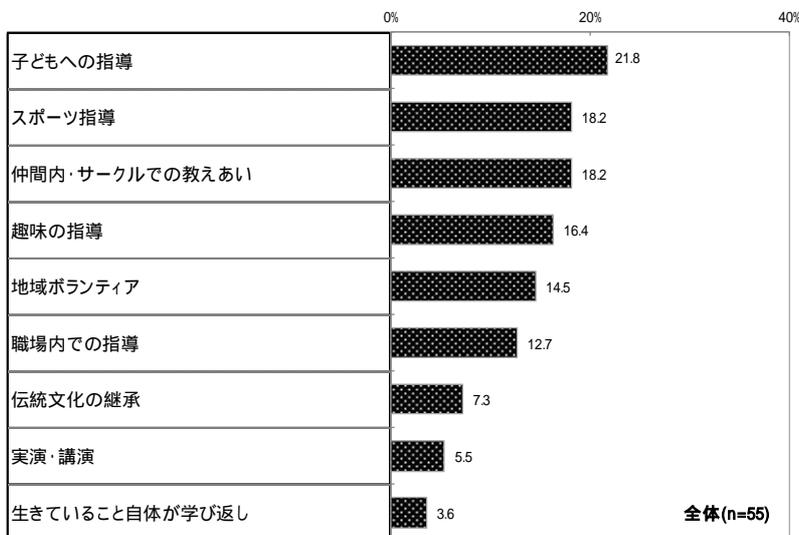
「したことがある」は12.2%、
「したことがない」は85.6%とな
っており、実施率は1割強にとど
まっている。



問 22

問 21 で「したことがある」と回答した人のみ どのような「学び返し」をしていま
すか。（自由記述）

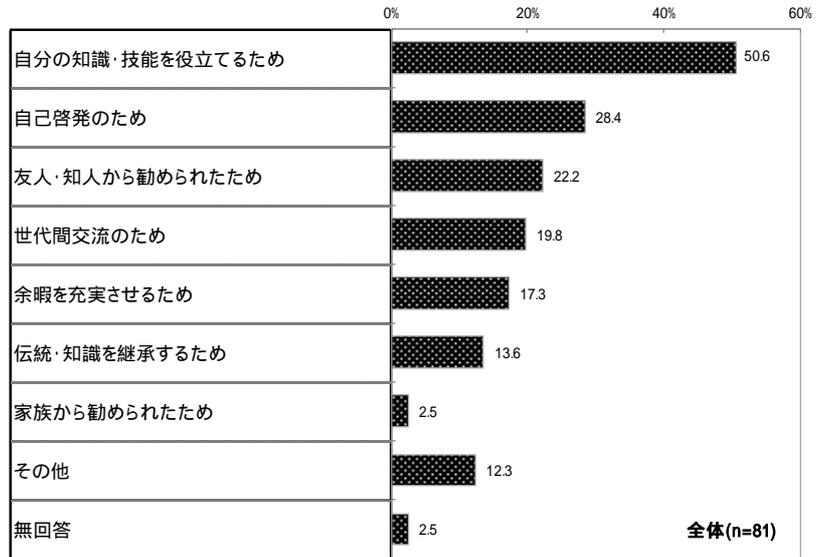
最も多いのは、「子どもへの指
導」の21.8%で、次に「スポーツ
指導」と「仲間内・サークル内
での教え合い」の18.2%、「趣味の
指導」の16.4%などと続く。教え
るのではなく、活動で地域に返す
「地域ボランティア」の活動は
14.5%にとどまる。



問 23

問 21 で「したことがある」と回答した人のみ 「学び返し」を始めたきっかけは何ですか。(○は3つ以内)

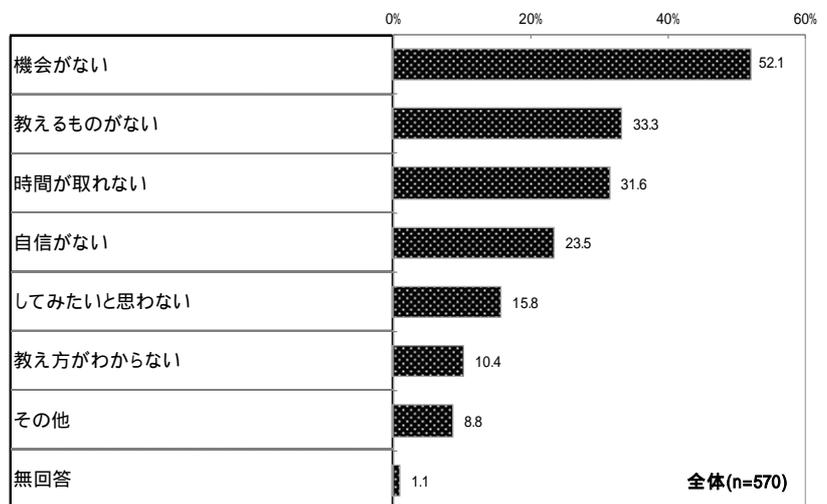
きっかけで最も多いのは「自分の知識・技能を役立てるため」の50.6%で、次にかなり離れて「自己啓発のため」(28.4%)、「友人・知人から勧められたため」(22.2%)、「世代間交流のため」(19.8%)と続いている。



問 24

問 21 で「したことがない」と回答した人のみ 「学び返し」をしたことがない理由は何ですか。(○は3つ以内)

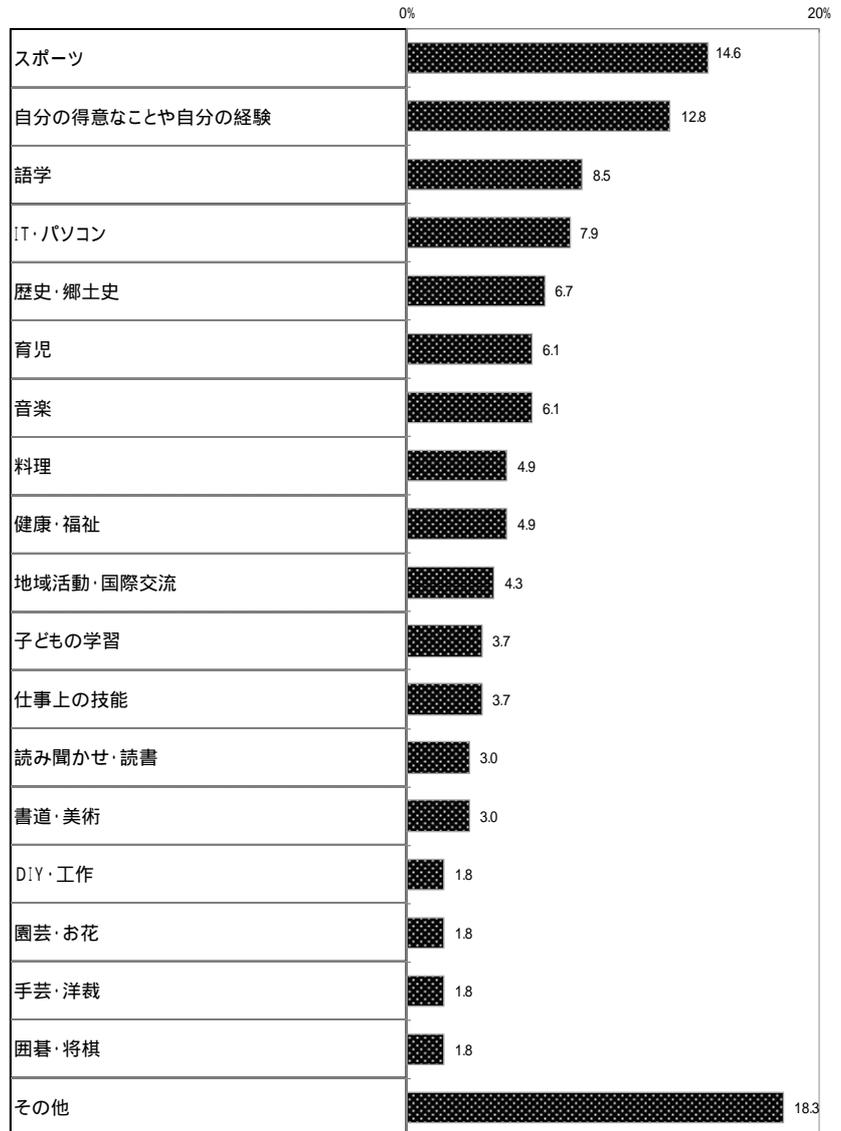
最も多いのは「機会がない」の52.1%で、次に「教えるものがない」33.3%、「時間が取れない」31.6%、「自信がない」23.5%と続く。



問 25

今後、どのような「学び返し」であればしてみたいと思いますか。（自由記述）

最も多いのは「スポーツ」の指導の14.6%で、次に「自分の得意なことや自分の経験を伝える」の12.8%、「語学」8.5%、「IT・パソコン」7.9%、「歴史・郷土史」6.7%等と続く。

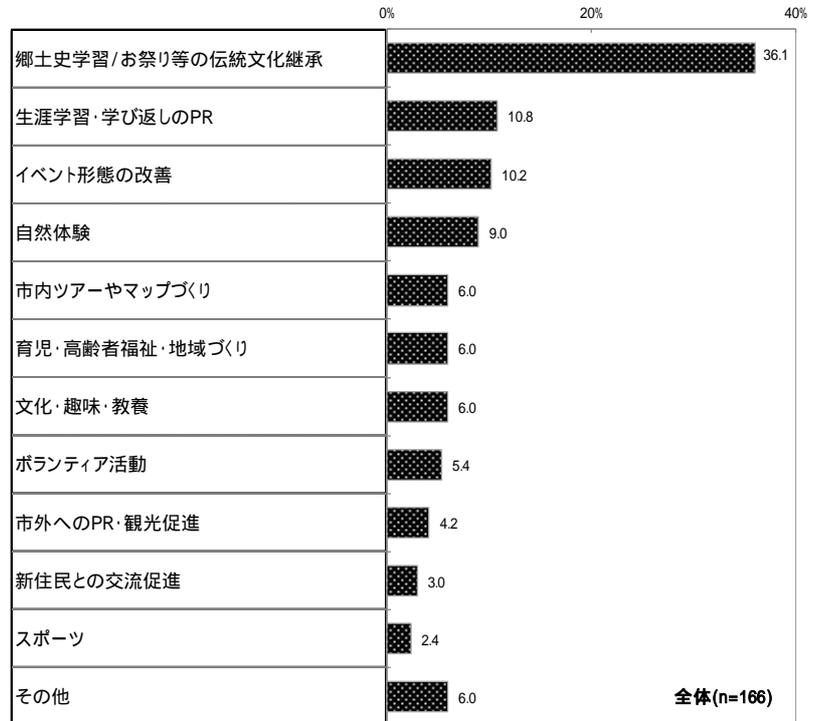


全体(n=164)

問 26

府中市は、自然豊かで、多くの公共施設や歴史的文化財があり、お祭りやイベントなどにぎわいがあるまちです。あなたはこういった市の特徴を活かしてどのような「学び返し」ができると思いますか。（自由記述）

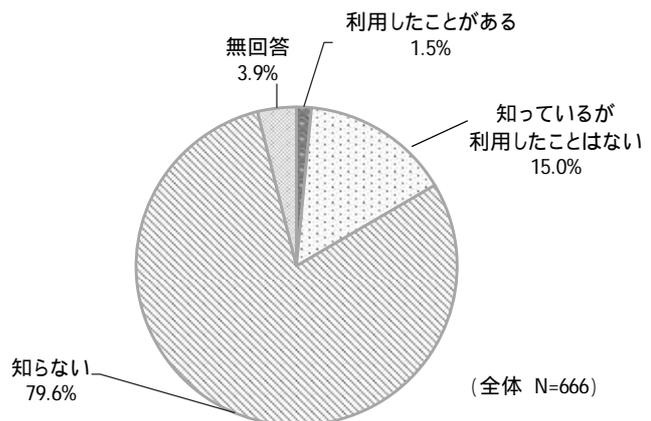
「郷土史学習/お祭り等の伝統文化継承」が36.1%と非常に多く、かなり離れて「生涯学習・学び返しのPR」の10.8%、「イベント形態の改善」の10.2%と続く。



問 27

「生涯学習サポーター」制度を知っていますか。または、利用したことがありますか。（は1つ）

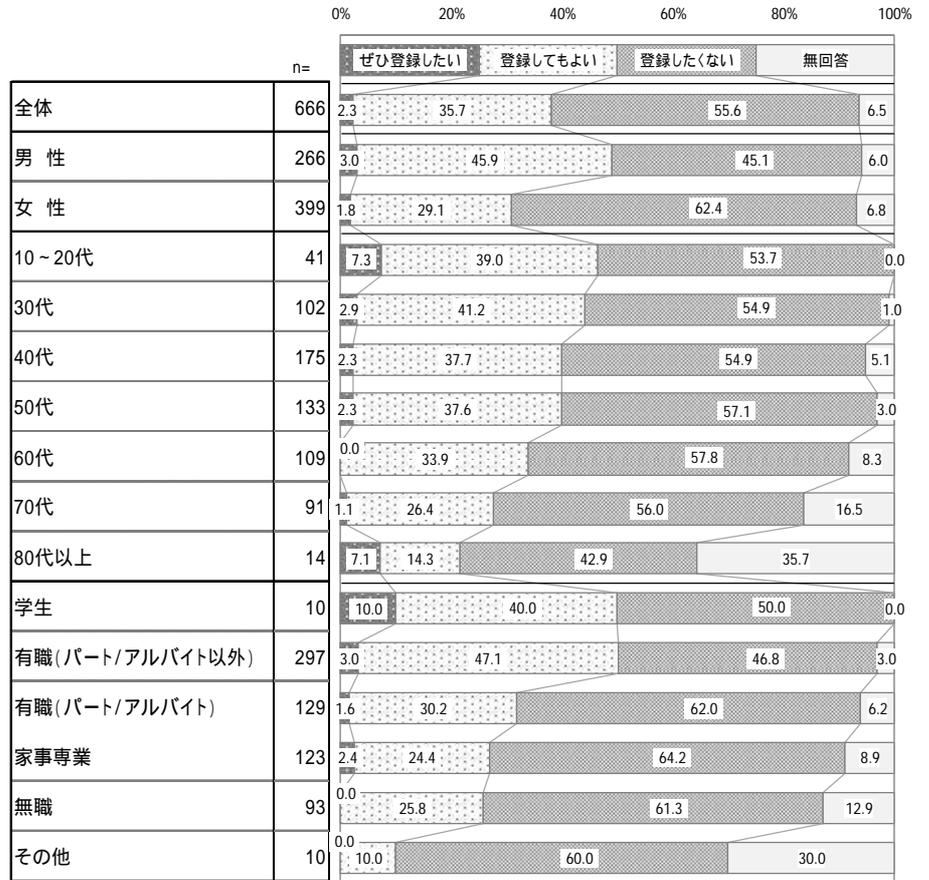
「利用したことがある」は1.5%、「知っているが利用したことはない」は15.0%にとどまり、全体の79.6%が「知らない」と回答している。



問 28

「学び返し」の手段として、「生涯学習サポーター」制度に登録したいと思いますか。
(は1つ)

「ぜひ登録したい」2.3%、
「登録してもよい」35.7%と
なっており、あわせて
38.0%に登録意向がある。

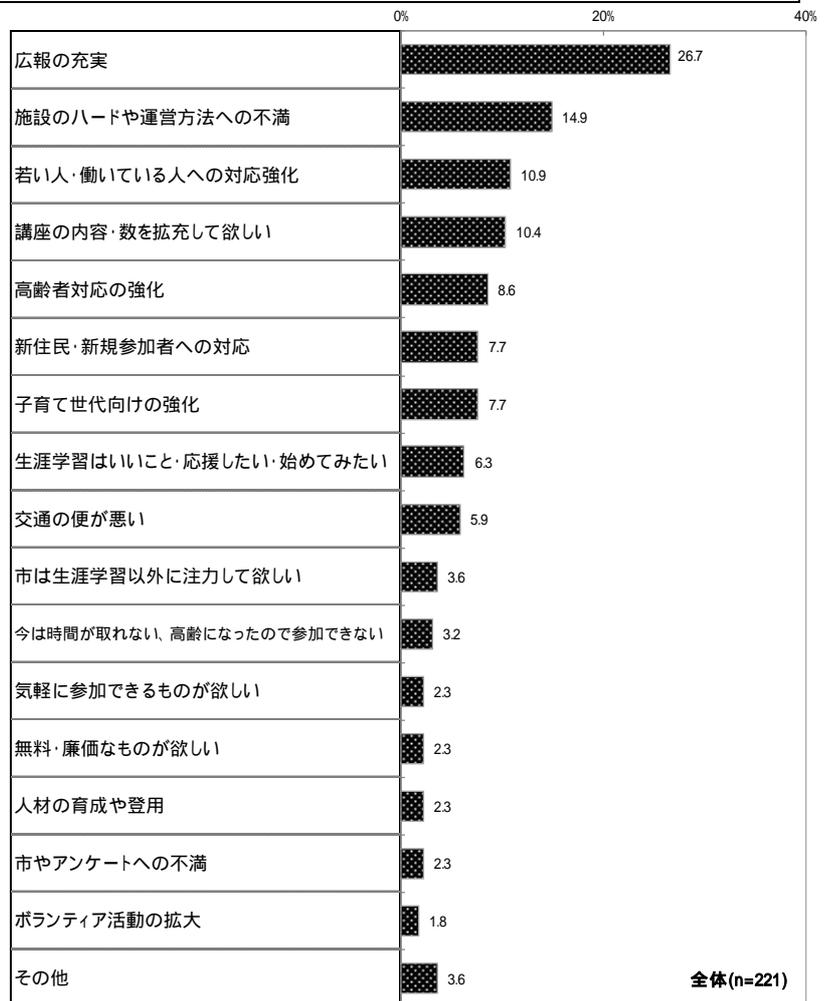


6. 自由意見

問 29

その他、市の「生涯学習」の施策や市民の皆様の活動を推進していく上でご提案、ご意見など自由にお書きください。（自由記述）

全体で最も多かったのは、「広報の充実」の26.7%、次に「施設のハードや運営方法への不満」の14.9%、「若い人・働いている人への対応強化」の10.9%、「若い人・働いている人への対応強化」の10.9%、「高齢者対応の強化」の8.6%、「新住民・新規参加者への対応」と「子育て世代向けの強化」の7.7%と続く。



【参考：「広報の充実」について記載した性・年代別割合】

